



JQA-QM5922 本社・工場
JQA-EM3683 本社・工場
この登録マークは製品またはサービス
そのものを保証するものではありません。

和同産業株式会社

本 社 〒025-0035 岩手県花巻市実相寺410番地
TEL 0198-24-3221 FAX 0198-41-1221

花巻営業所 〒025-0035 岩手県花巻市実相寺410番地
TEL 0198-24-3265 FAX 0198-41-1221

長野営業所 〒381-2207 長野県長野市大橋南2丁目19番地
TEL 026-285-0885 FAX 026-285-0887

岩見沢営業所 〒068-0852 北海道岩見沢市大和2条3丁目9番地
TEL 0126-22-6221 FAX 0126-32-2162

岡山出張所 〒710-0837 岡山県倉敷市沖新町5番地8号
TEL 086-426-0050 FAX 086-426-0100

URL / <http://wadosng.jp/>

お客様メモ

購入日 平成 年 月 日

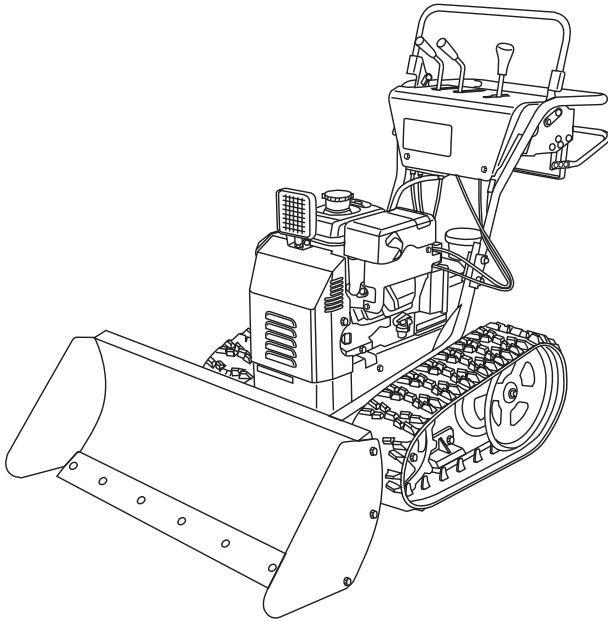
購入店名

品番：91901-B90-000

本冊子には再生紙を使用しています。

取扱説明書

WADO ワドー除雪機 SB691



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。

お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、ワドー除雪機をお買い上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は、機械の取扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いてください。

お願い

- 本機を使用する前に、必ず取扱説明書をよく読んで、十分理解してから使用してください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および警告ラベルを、紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げいただいた販売店にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1章 安全に作業するために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた販売店へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。販売店へご相談ください。

説明記号
の見方



その警告文に従わなかった場合、死亡または、重傷を負うことになるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、死亡または、重傷を負う危険性があるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

[重要]

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]

作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

本製品の
使用目的
について

- 本製品は、積雪を除去する除雪作業機としてご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
- 使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。(保証適用除外事項は、保証書をご覧ください。)

もくじ

はじめに

1章 安全に作業するために必ずお守りください	1
・ 1. 一般的な注意項目	1
・ 2. 作業前後の確認時の注意項目	4
・ 3. 輸送時の注意項目	11
・ 4. 移動・作業時の注意項目	13
・ 5. 作業終了後・格納時の注意項目	19
・ 6. 警告ラベルの貼り付け位置	20
2章 保証とサービスについて	22
3章 各部のなまえ	24
4章 各操作部のはたらき	26
・ ①エンジンスイッチ	26
・ ②始動グリップ	27
・ ③エンジン回転調節レバー	28
・ ④チョークレバー	28
・ ⑤変速レバー	29
・ ⑥走行クラッチレバー	30
・ ⑦サイドクラッチレバー	31
・ ⑧後進時非常停止レバー	32
・ ⑨作業灯	33
5章 運転前の準備・点検	34
・ 始業点検一覧表	35
・ メンテナンスカバーの取り外しかた	36
・ ハンドル高さの調整のしかた	37
・ 燃料の点検	38
・ エンジンオイルの点検	39
・ バッテリーの点検	40
・ ミッションオイルの点検	41
・ その他の点検	42

もくじ

6章 運転・移動のしかた	43
・ 1. エンジンの始動のしかた	43
・ 2. 暖機運転のしかた	47
・ 3. エンジンの停止のしかた	49
・ 4. 発進のしかた	50
・ 5. 変速のしかた	53
・ 6. 旋回のしかた	54
・ 7. 停車のしかた	55
・ 8. 駐車のしかた	57
・ 9. トラックでの運搬のしかた	58
7章 除雪作業のしかた	61
・ 1. 発進の要領	61
・ 2. ブレード角度の変更	63
・ 3. 除雪作業の要領	65
8章 定期点検	67
9章 点検・整備のしかた	69
・ 1. エンジンオイル	69
・ 2. エアクリーナー	71
・ 3. 燃料ストレーナ	73
・ 4. 点火プラグ	74
・ 5. クローラ張り調整	76
・ 6. ドライブピン	78
・ 7. バッテリー	80
・ 8. ヒューズ	84
・ 9. 燃料の抜きかた	85
10章 長期間使用しないときの手入れ	86
11章 不調診断のしかた	88
12章 主要諸元	89
13章 主要消耗部品および標準付属品	90

1章 安全に作業するために必ずお守りください

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

1. 一般的な注意項目



警告

「取扱説明書」をよく読んで。

本機を使用する前に、必ず「取扱説明書」をよく読んで、十分理解してから使用してください。取扱説明書に記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損等が生じるおそれがあります。



警告

こんなときは運転しない。

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき
- 酒を飲んだとき
- 妊娠しているとき
- 18歳未満の人
- 睡眠不足の人
- 操作する体力に自信のない人
- 運転が未熟な人
- 視力不足のため、表示内容が読めない人
- 取扱説明書の内容が理解できない人



すべりにくい靴・手袋などの作業に適した服装を心がけてください。

はち巻き、マフラー、その他巻き込まれそうな服装は禁止です。ヘルメット、すべり止めの付いた長靴、手袋を着用し、作業しやすい、だぶつきのない服装をして下さい。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、ケガをするおそれがあります。



除雪目的外の作業は絶対禁止。

本機は除雪機です。除雪目的外の使用は絶対しないで下さい。

【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



機械を他の人に貸すときは。

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

説明不足により死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



機械の改造や指定以外のアタッチメントの装着禁止。

改造をしないでください。

【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



機械の中に手を入れない。

カバーの中には回転部や可動部があり、むやみに手などを入れると大変危険です。やむをえないときは必ずエンジンを停止してから行ってください。

【守らないと】

回転物などに巻き込まれ、傷害事故をまねくおそれがあります。

2. 作業前後の確認時の注意項目



注油・給油・点検はエンジンが冷めてから行う。

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油・点検をしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火し、火災の原因となることがあります。



燃料補給時は火気厳禁。

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明など火気厳禁です。

【守らないと】

燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。



バッテリー点検時は火気厳禁。

バッテリーの点検時、液槽キャップを開けたときは火気厳禁です。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。



排気ガスには十分に注意。

しめきった屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



機械の下にもぐったり、足を入れない。

機械の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

何かの原因で機械が動いたときに、傷害事故をおこすおそれがあります。



燃料もれに注意する。

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。



燃料タンクキャップをしめ、こぼれた燃料は拭き取る。

燃料を補給したときは、燃料タンクキャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こす原因になります。



バッテリー液は体につけないように。

バッテリー液を身体や衣服につけないようにしてください。万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】

服が破れたり、火傷します。



バッテリーの取り付け取り外しは正しい手順で。

バッテリーを取り付けるときはプラス側を先に取り付け、取り外すときは、マイナス側から取り外します。

【守らないと】

ショートして、火傷や火災事故の原因となります。



バッテリー端子の接続は正しく確実に。

バッテリー端子のプラス側とマイナス側を接触させたり、プラス側を機械に接触させないでください。

【守らないと】

ショートして、火傷や火災事故の原因になります。



必ず指定のバッテリーを使用。

バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書で指定されたバッテリーを使用してください。

【守らないと】

火災の原因となることがあります。

※指定のバッテリーはP. 80参照



電気部品・コードは必ず点検。

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災の原因となることがあります。



マフラー・エンジンのゴミは取り除く。

マフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料など付着していないか作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。

【守らないと】

火災事故やオーバーヒートを引き起こすおそれがあります。



点検整備は平坦で安定した場所で行う。

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



作業前には必ず安全装置を確認する。

作業前に安全装置の取扱いと、適切に働くかを確認してください。

【守らないと】

安全装置が作動せず、死亡事故や重大な事故をまねくおそれがあります。



作業前・後は必ず機械の点検をする。

使用の前と後には必ず機械の点検をしてください。特にクラッチ・レバーなどの操作装置は確実に作動することを確認してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障を生じるおそれがあります。



カバー類は必ず取り付ける。

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



点検整備は過熱部が十分冷めてから。

マフラーやエンジンなどの過熱部が十分冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

火傷をするおそれがあります。



機械の点検整備・清掃などをする
ときはエンジンを停止する。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となります。

3. 輸送時の注意項目



トラックへの積み込み時は、強度・幅・長さの十分あるアユミ板を使用する。

アユミ板は丈夫ですべり止めのある、基準にあったものを使ってください。

【守らないと】

アユミ板が折れたりして転倒し、傷害事故をおこすことがあります。

<アユミ板の基準>

強度：機体の重量+作業者の体重に十分耐えるもの

幅：クローラ幅の1.2倍以上

長さ：荷台の高さの4倍以上

：すべり止めのあるもの

：フックのあるもの



アユミ板は確実に固定する。

積み込み・積み降ろしをするトラックの荷台からズレたり、外れたりしないように確実にアユミ板を固定してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



トラックには必ず車止めを。

積み込むトラックのエンジンを止め、変速は「P」または、「1」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。



積み込み・積み降ろし作業は、誘導者をつけて。

トラックなどからの積み込み・積み降ろし作業は、誘導者をつけて、周囲の安全を十分確認してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



ロープで確実に固定する。

トラックにのせて移動するときは、強度の十分あるロープでトラックに確実に固定してください。

【守らないと】

荷台から機械が転落したり、事故をまねくおそれがあります。



アユミ板の上ではクラッチレバーと、変速レバー「中立」操作厳禁。

トラックへの積み込み・積み降ろしは、アユミ板の上で進路変更をしないように進路を定めて低速で行ってください。変速レバーを「中立」位置にしたり、走行、サイドクラッチの操作はしないでください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

4. 移動・作業時の注意項目



付着した雪や異物を取り除くときは、エンジンを停止する。

【守らないと】

機械が動きだし、ケガをするおそれがあります。



除雪作業中は機械のまわりに人や動物を近づけない。

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



後進するときは低速で障害物に注意。

後進するときは低速で行い、転倒ないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認して、障害物と機械の間に挟まれないようにしてください。

【守らないと】

機械に挟まれたり、転倒などの重大事故のおそれがあります。



坂道は走行注意。

急な坂道は走行しないでください。

やむをえず坂道を走行する場合は、転倒やスリップに気を付けて、低速でゆっくりと移動してください。

【守らないと】

機械の横転、暴走など思わぬ事故を引き起こす原因となります。



坂道では駐車禁止。

【守らないと】

機械が動き出し、事故の原因となります。



坂道ではサイドクラッチ操作禁止。

坂道の途中ではサイドクラッチ操作はしないでください。

【守らないと】

滑り落ちたり、転倒などの事故の原因となります。



凍結時は十分注意し低速で。

凍結した滑りやすい路面ではなるべく作業しないでください。
やむをえない場合は、十分注意し低速で行ってください。

【守らないと】

転倒事故などの原因となります。



わき見運転や手放し運転禁止。

【守らないと】

傷害事故の原因となります。



**機械から離れるときは平坦地に置き
エンジンを止める。**

機械から離れるときは、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めてエンジンスイッチキーを抜いてください。

【守らないと】

機械が動きだし、事故の原因となります。



運転時は作業灯を点灯する。

【守らないと】

視界不良により事故などの原因となります。

※この機械は、エンジンスイッチを「入」位置にすると作業灯が点灯します。エンジンスイッチを「入」位置にしても作業灯が点灯しない場合は、修理の上使用してください。



エンジン始動時は、走行クラッチレバーから手を離す。

【守らないと】

機械が急発進してケガをするおそれがあります。



機械の異常に気付いたらすぐにエンジン停止。

異物が当たったり、巻き付いたり、異常振動、異音、異臭などに気付いたら、すみやかにエンジンを停止し、過熱部が冷めてから点検してください。

【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



回転部に手・足・顔を近づけない。

回転している部分をのぞき込んだり、手・足・顔を絶対に近づけないでください。

【守らないと】

機械へ巻き込まれて、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



**燃えているものの上やその近くは
走行禁止。**

【守らないと】

燃料やオイルなどに引火して、火災になるおそれがあります。



**急発進・急旋回・急停止やスピード
の出しすぎ禁止。**

発進・停止はゆっくり行ってください。旋回するときは、十分速度を落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では十分速度を落としてください。

【守らないと】

機械の破損、事故の原因となることがあります。



移動時は路肩に注意。

溝のある道路や両側が傾斜している道路では、路肩に十分注意してください。

【守らないと】

転落事故を引き起こすおそれがあります。



傾斜面を横切つての作業は行わない。

【守らないと】

転倒事故を引き起こすおそれがあります。



周囲の安全を確かめ低速で発進する。

急発進や急旋回をしないで周囲の安全を確認してゆっくりと発進してください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。

5. 作業終了後・格納時の注意項目



シートなどは機械が十分冷めてからかける。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。



機械の清掃・点検をするときはエンジンを停止する。

【守らないと】

機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。



長期格納時はバッテリーを外す。

長期間使用しないで格納する場合は、バッテリーを取り外してください。

【守らないと】

故障の原因となることがあります。



定期点検整備を受けてください。

1年ごとに定期点検を受け、各部の保守をしてください。

【守らないと】

整備不良による事故や、機械の故障を生じるおそれがあります。

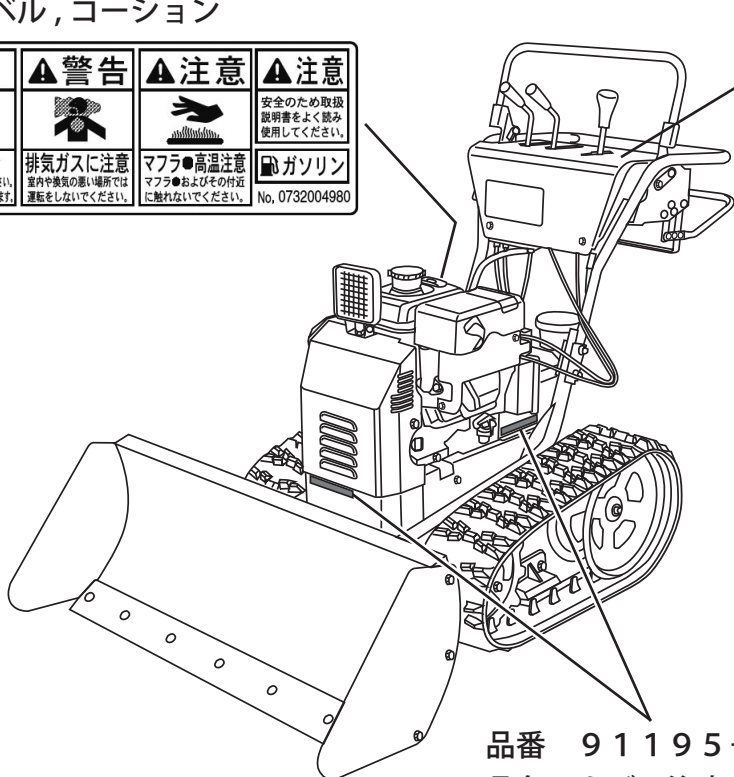
6. 警告ラベルの貼り付け位置

警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへの危険を知らせる大事なものです。

- ・ラベルが損傷した場合はできるだけ早く貼り替えてください。
なお、注文の際には、この図に示す部品番号をお知らせください。
- ・高圧洗浄機で洗うと、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

品番 073-20049-80

品名 ラベル, コーション



品番 91195-010

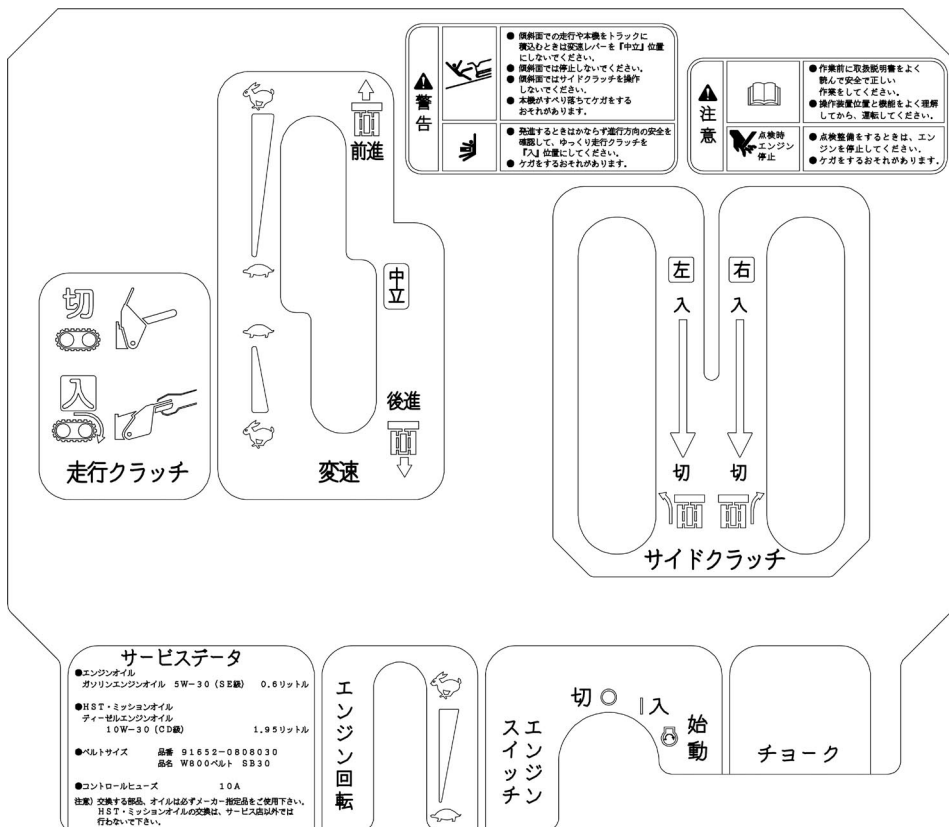
品名 カバー注意ラベル



1章 安全に作業するために必ずお守りください

品番 79901-B90-003

品名 パネルマーク



2章 保証とサービスについて

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

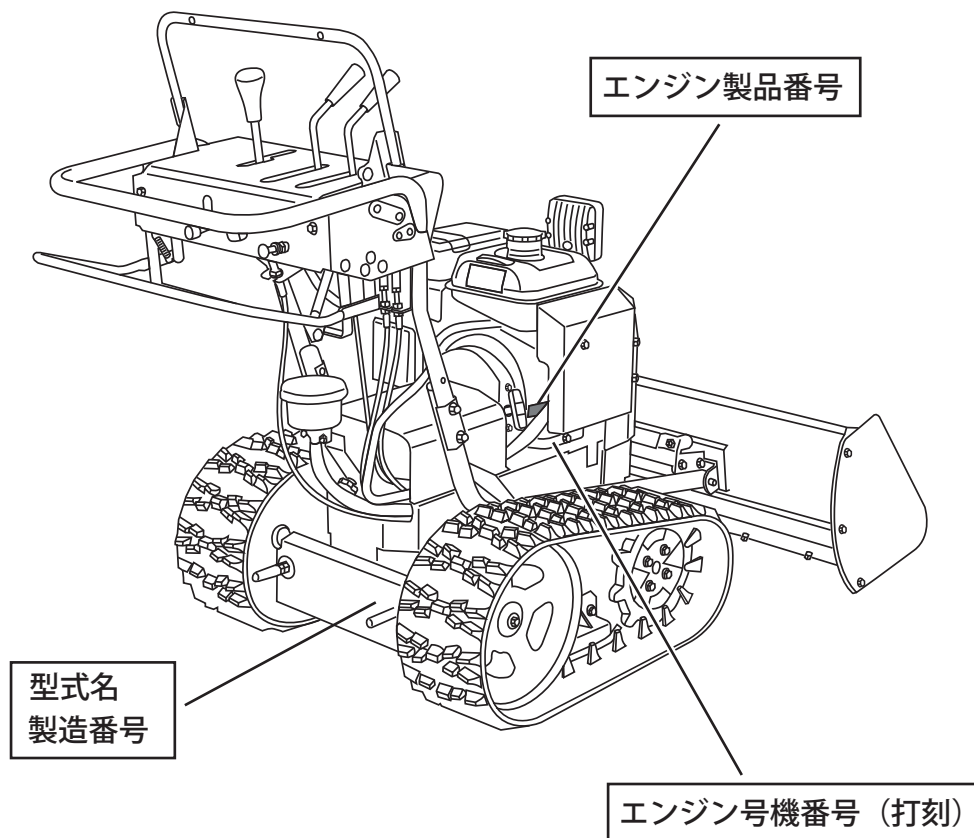
アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに88ページの「11章 不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。

<連絡していただきたい内容>

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン製品番号とエンジン号機番号
- ご使用状況は？
(車速や、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
(約□□時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えてください。

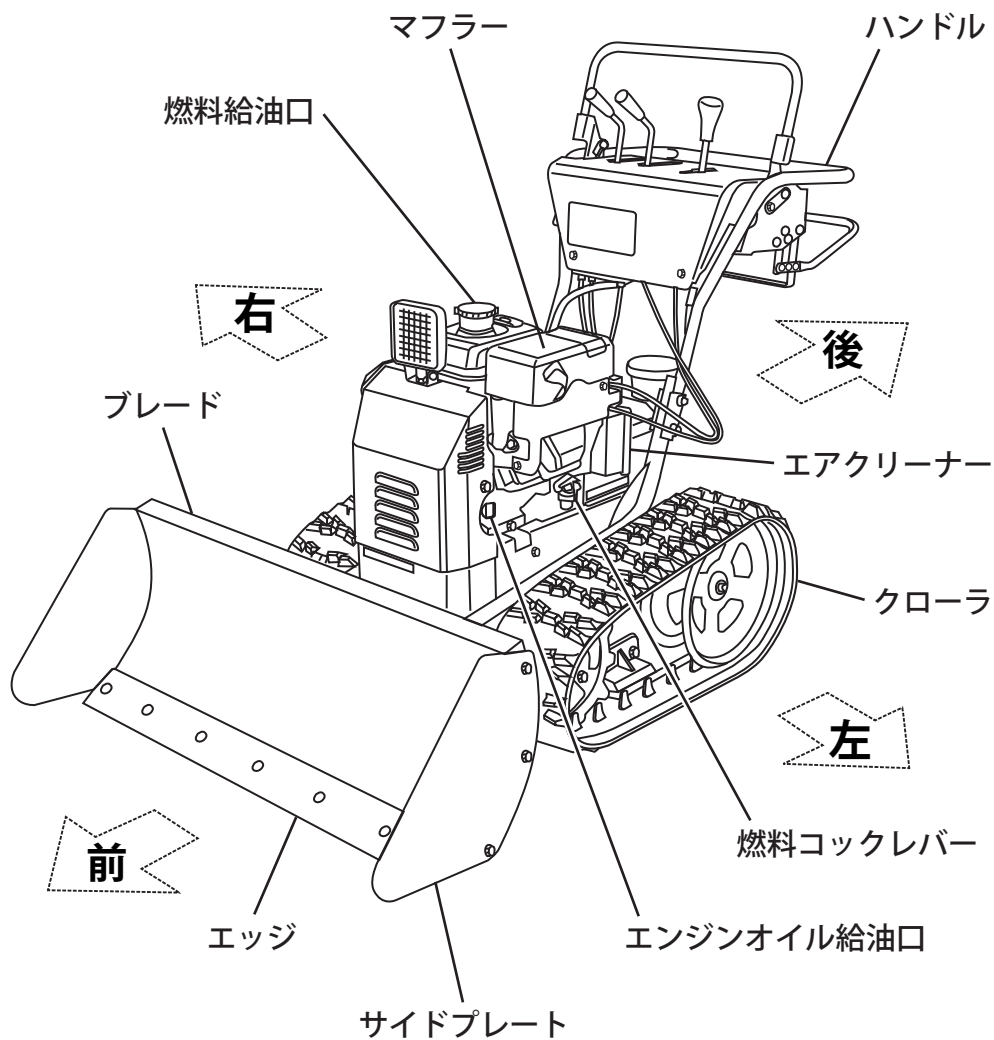
2章 保証とサービスについて



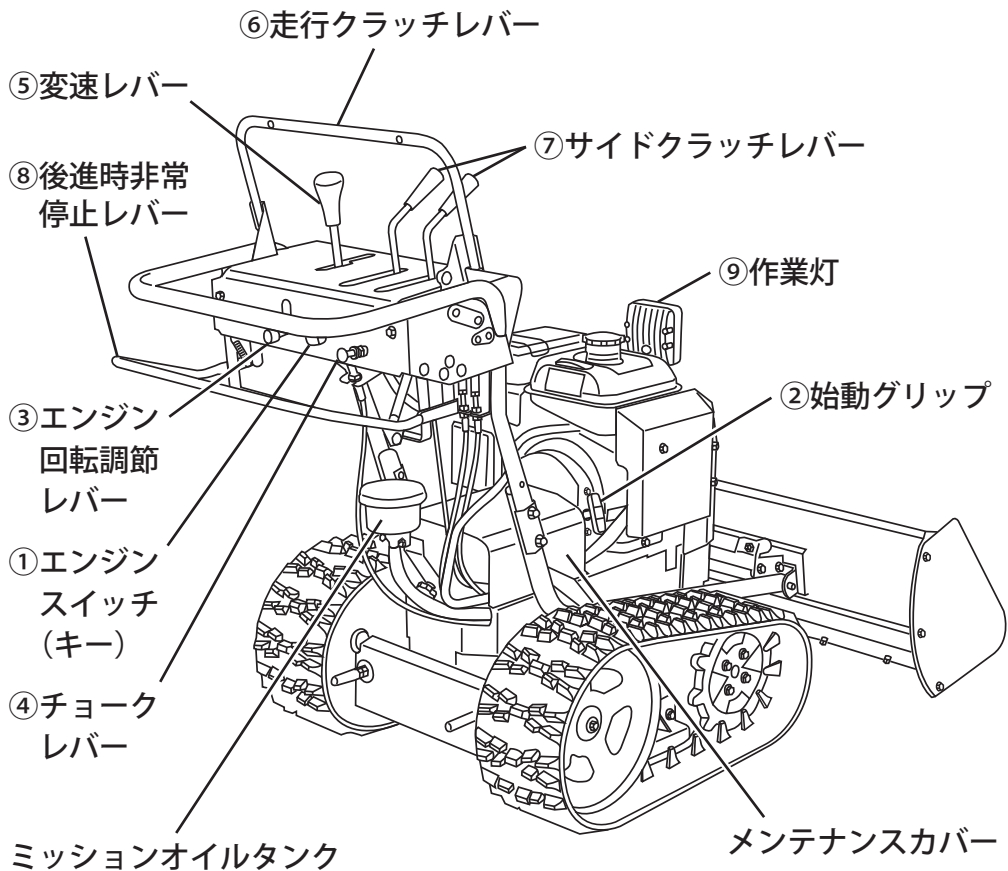
補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、納期などをご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

3章 各部のなまえ



3章 各部のなまえ



4章 各操作部のはたらき

① エンジンスイッチ

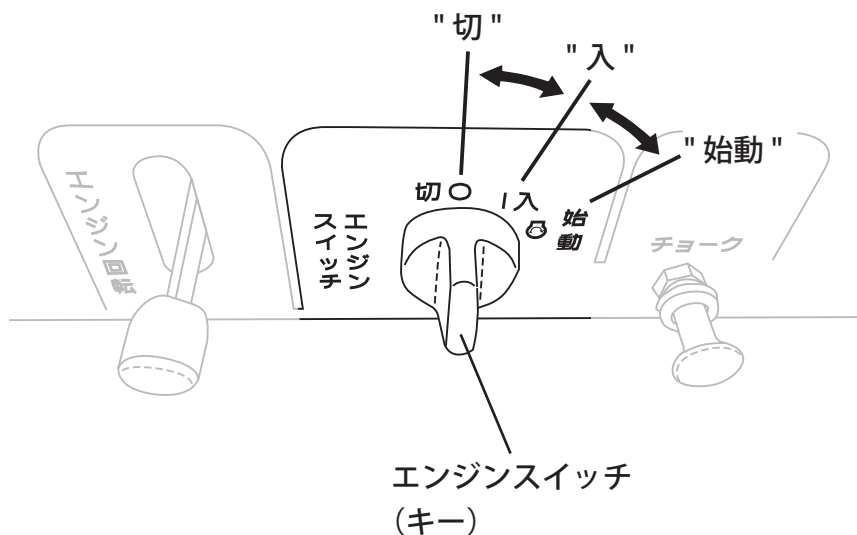
エンジンを始動、運転、停止させるときに操作します。

「切」・・・エンジンを停止する位置です。

(キーの抜き取り、差し込みができます。)

「入」・・・エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

「始動」・・・エンジンを始動させるときこの位置まで回します。エンジンが始動したら手をキーから離してください。エンジンスイッチキーは自動的に「入」位置に戻ります。

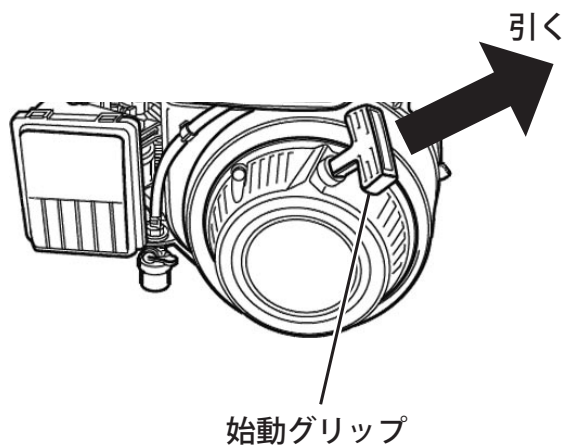


4章 各操作部のはたらき

② 始動グリップ

エンジンの始動を行うグリップです。

エンジンスイッチを「入」位置にした状態で引くと、エンジンを始動することができます。



4章 各操作部のはたらき

③ エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調節するときに操作します。

「高」側へレバーを操作すると回転は上がり、「低」側へレバーを操作すると回転は下がります。

④ チョークレバー

寒いときやエンジンがかかりにくいときに操作します。

寒いときやエンジンがかかりにくいときにはチョークレバーを引いた状態にします。

エンジンが始動したら、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に戻します。

エンジンが暖まっているときは操作不要です。

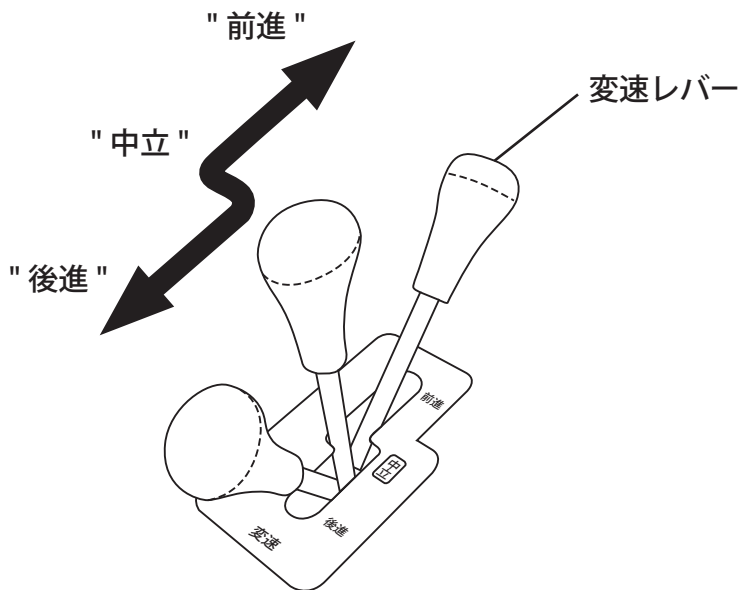


4章 各操作部のはたらき

⑤ 変速レバー

除雪機を前進・後進させるときに操作します。

前進、後進の速度を無段階に調節することができます。



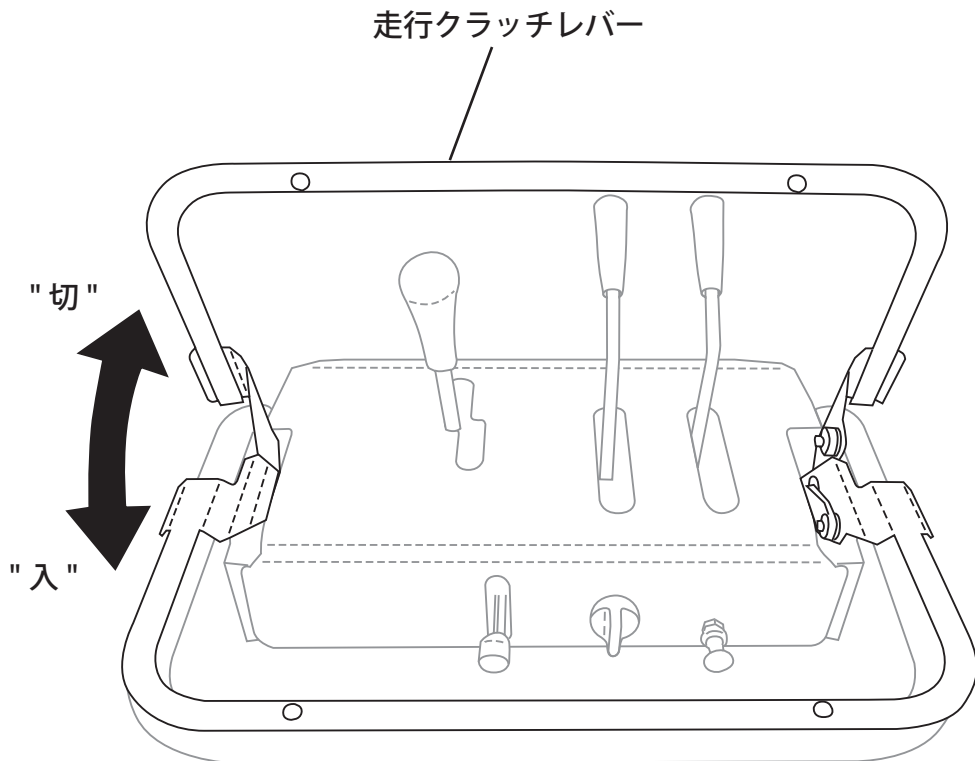
エンジン始動時や停車時は、変速レバーを「中立」位置に戻してください。守らないと、機械が急発進してケガをするおそれがあります。

4章 各操作部のはたらき

⑥ 走行クラッチレバー

ミッションへの動力の断接をするときに操作します。

走行クラッチレバーを握り「入」位置にすると、ミッションに動力が伝わり、離せば「切」位置になり動力が伝わりません。



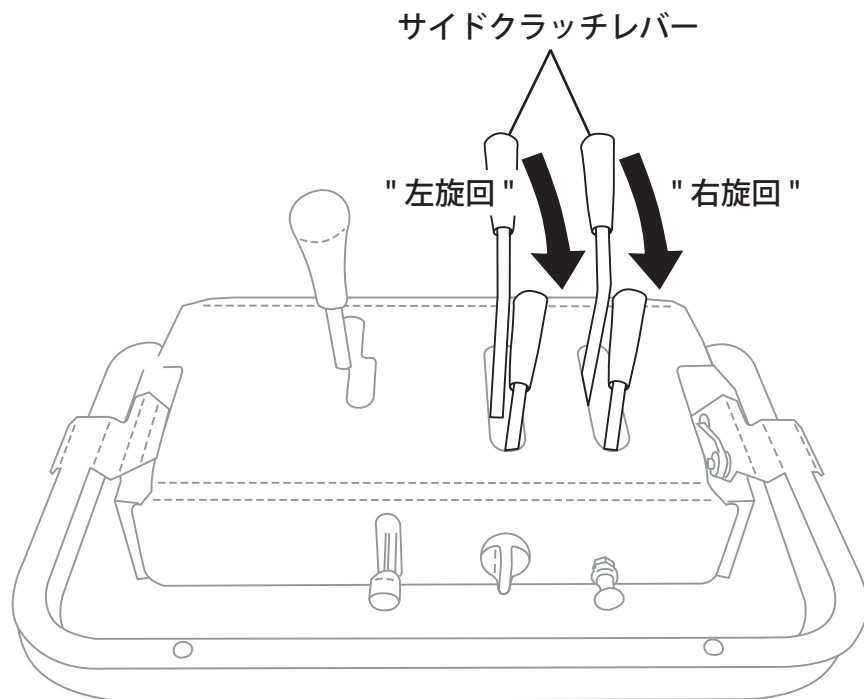
4章 各操作部のはたらき

⑦ サイドクラッチレバー

除雪機の進行方向を変えるときに操作します。

右旋回・・・右側のサイドクラッチレバーを引く。

左旋回・・・左側のサイドクラッチレバーを引く。

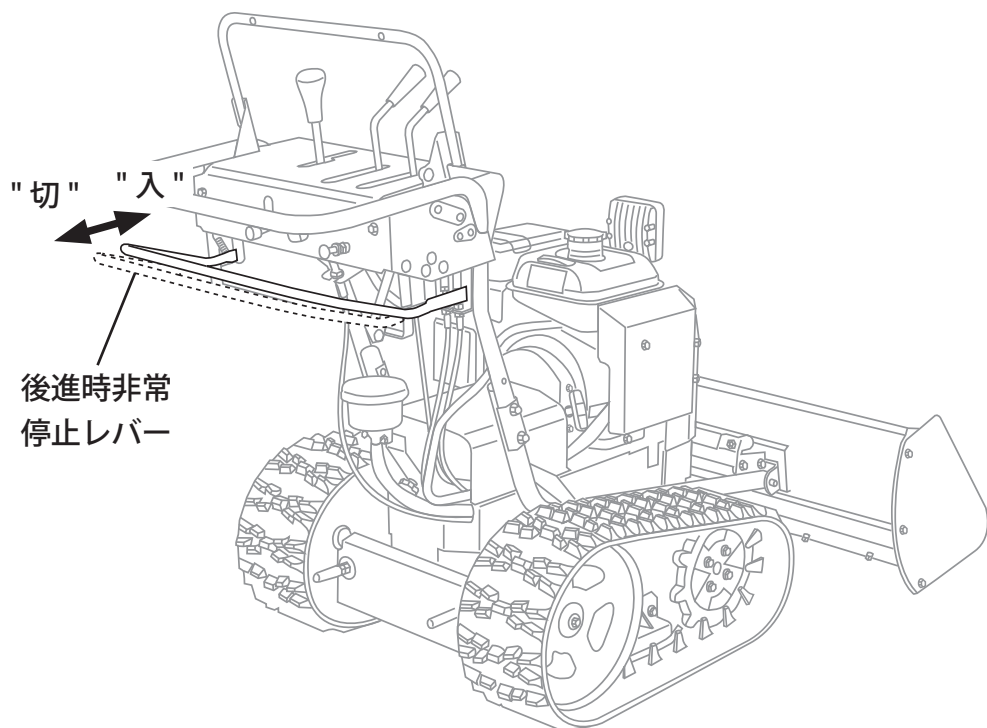


4章 各操作部のはたらき

⑧ 後進時非常停止レバー

後進時に後進時非常停止レバーを強く押すと、走行クラッチレバーが「入」位置のままでも走行が停止します。

再び走行を開始するには、走行クラッチレバーを一度「切」位置に入れる必要があります。



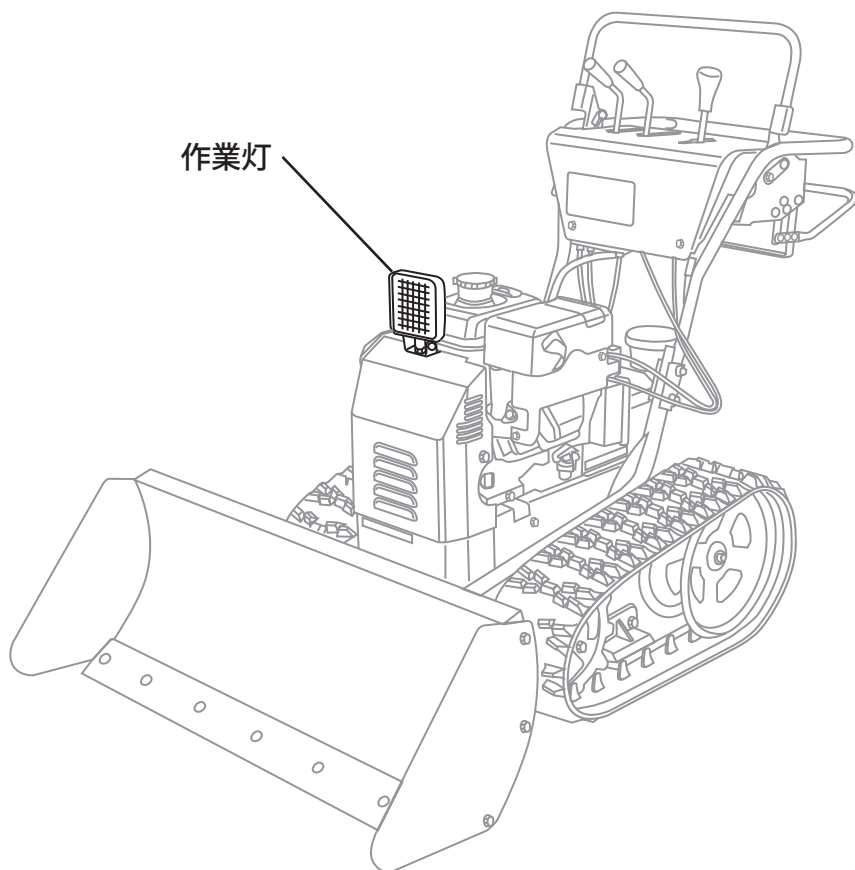
後進時非常停止レバーが「入」位置になって停止した場合は、変速レバーを「中立」位置に戻してください。

守らないと機械が急発進してケガをするおそれがあります。

4章 各操作部のはたらき

⑨ 作業灯

作業灯は、エンジンスイッチを「入」位置にすると点灯し、エンジンスイッチを「切」位置にすると消灯します。



5章 運転前の準備・点検

快適で安全な作業をするためには、機械の状態をいつも最良にしておくことが大切です。

運転・作業を行う前には、機械の始業点検を行ってください。



- 点検、整備を行うときは、必ず平坦なところでエンジンを停止させてから行ってください。
- 燃料補給時は、くわえタバコ等火気厳禁です。燃料補給後は燃料タンクキャップを確実にしめ、燃料タンクや燃料パイプ等からの燃料もれがないか点検してください。守らないと火災事故の原因になります。
- 燃料は給油口の口元まで入れず、所定の給油限界位置まで補給してください。入れすぎると燃料が燃料タンクキャップからにじみ出ることがあり危険です。
- 燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布などで完全に拭き取り、火災、環境に注意し、処分してください。
- エンジンが熱い間は、点検・整備等は絶対にしないでください。火傷をするおそれがあります。



- 点検、整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。機械に巻き込まれて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

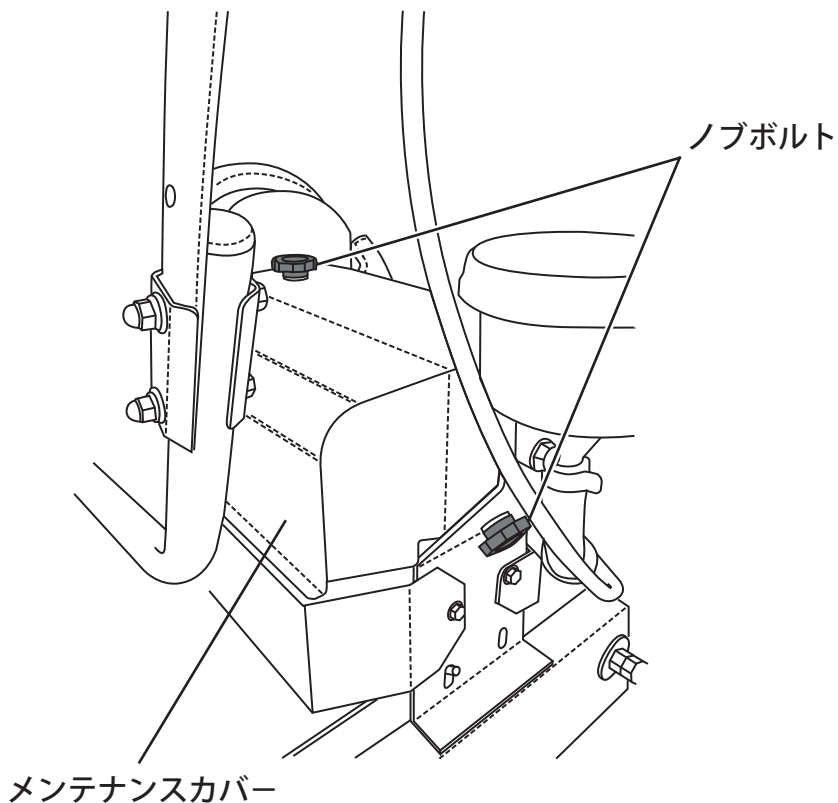
5章 運転前の準備・点検

始業点検一覧表

点検・調整箇所	種類・規定量・サイズ	内容	参照ページ
燃料	無鉛ガソリン 3.6リットル	点検・補給	38
エンジンオイル	SAE 5W-30 SE級以上 0.6リットル (給油口の口元までであること)	点検・補給	39
バッテリー	40B19R	点検・補充電	40
ミッションオイル	SAE 10W-30 CD級以上 1.95リットル (タンクの上限と下限 の間にあること)	点検・補給	41
燃料もれ・油もれ	—	点検	—
エンジン周辺	—	点検	—
各部の締め付け	—	点検	—
クローラ	—	点検	—
各部の作動状態	—	点検	—
前回作業時の異常箇所	—	点検	—

メンテナンスカバーの取り外しかた

2ヶ所のノブボルトを外して取り外します。
点検整備後は元通りに取り付けてください。

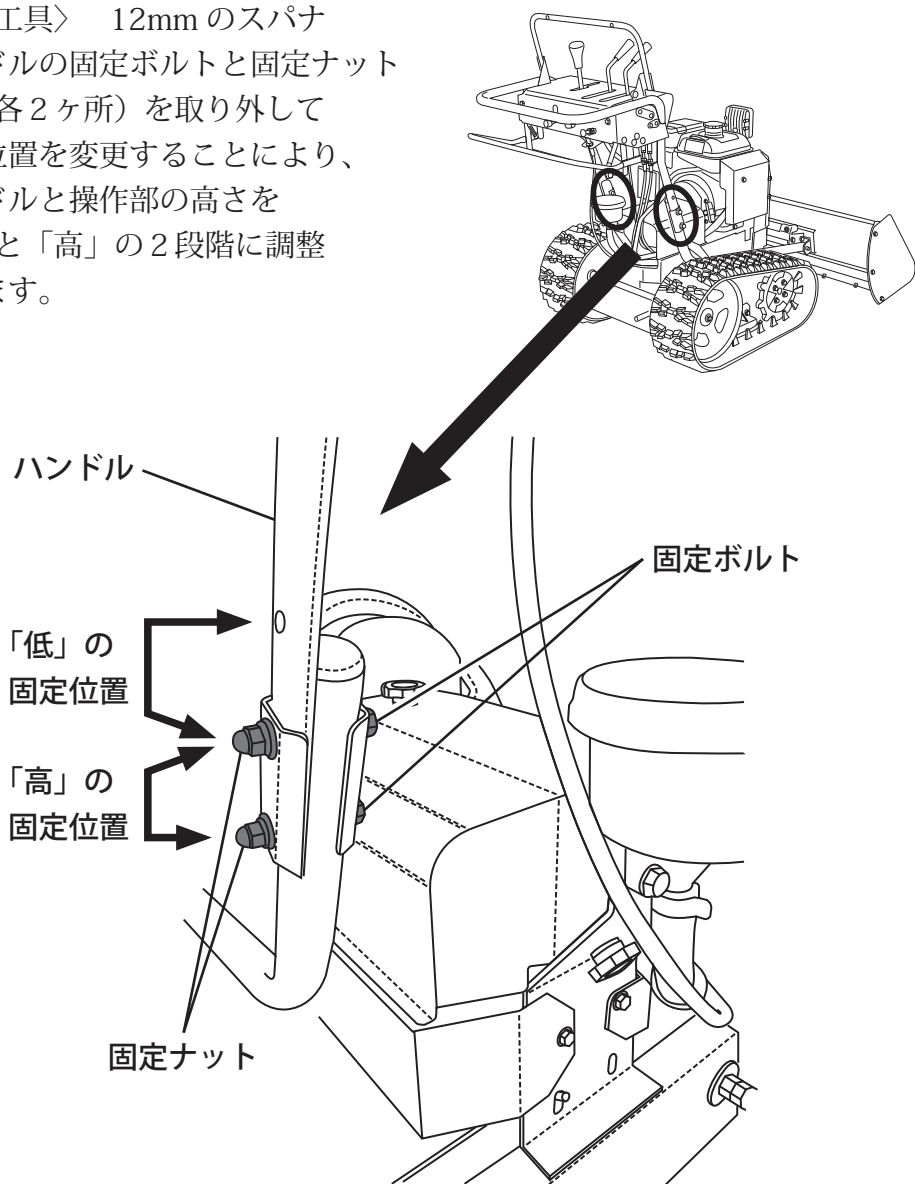


[参考]

メンテナンスカバーは、バッテリーやヒューズの点検整備時に開閉します。

ハンドル高さの調整のしかた

〈必要工具〉 12mm のスパナ
ハンドルの固定ボルトと固定ナット
(左右各2ヶ所) を取り外して
固定位置を変更することにより、
ハンドルと操作部の高さを
「低」と「高」の2段階に調整
できます。



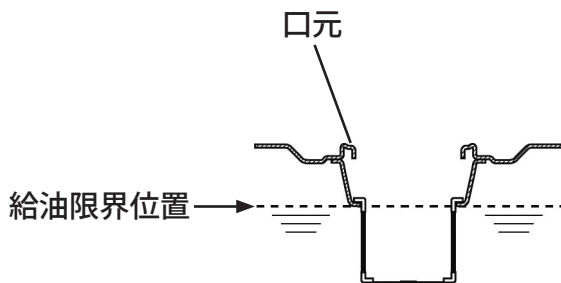
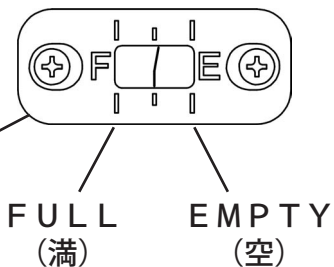
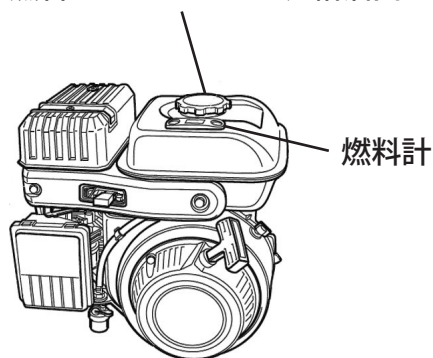
燃料の点検

<点検>

タンク上部の燃料計を見て残量を確認します。

少ないときは、給油限界位置まで補給してください。

燃料タンクキャップ、給油口



<補給>

- 1) 燃料タンクキャップを外し、給油限界位置まで補給します。
- 2) 補給後、燃料タンクキャップを確実に閉めてください。

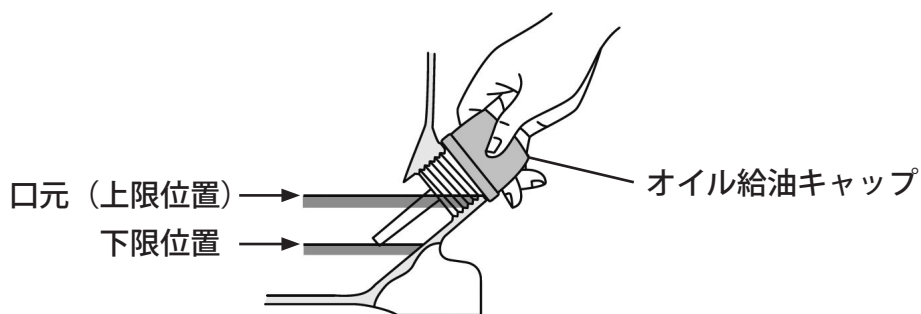
使用燃料・・・自動車用無鉛ガソリン
タンク容量・・・3.6リットル

エンジンオイルの点検

<点検>

- 1) エンジンを水平な状態にします。
- 2) オイル給油キャップを外して、給油口の口元までオイルがあるか点検してください。

※オイルが著しく汚れている場合は、交換してください。



<補給>

オイルが少ないときは、新しいオイルを給油口の口元まで補給してください。

推奨オイル・・・4サイクルガソリンエンジンオイル

SAE 5W-30 SE級以上

オイル容量・・・0.6リットル（給油口の口元までであること）

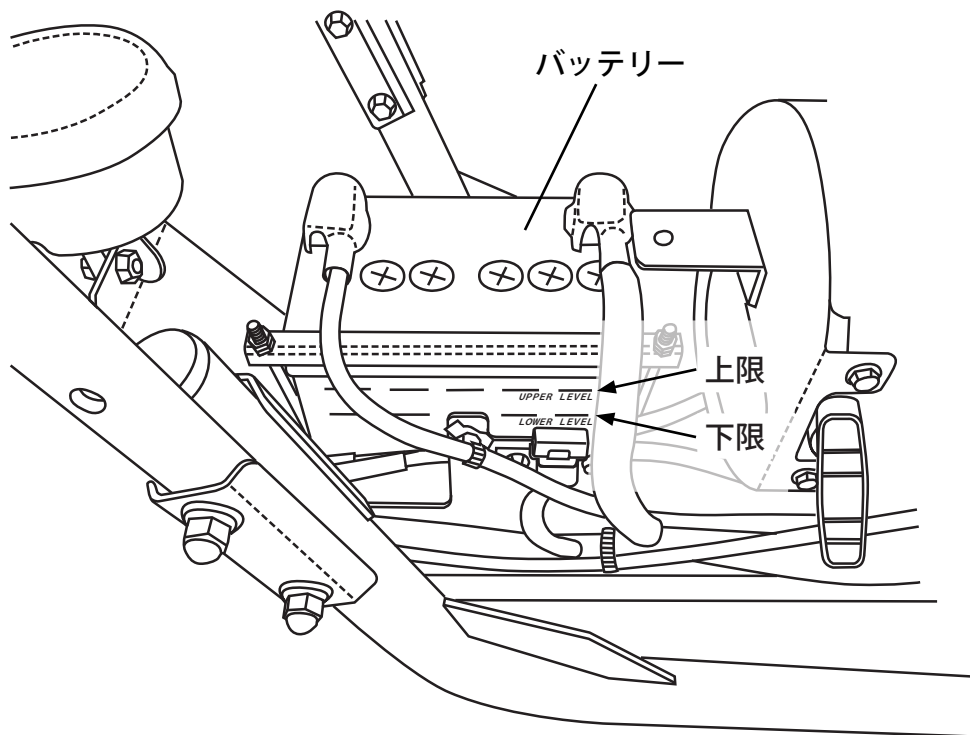
バッテリーの点検

<点検>

メンテナンスカバーを外して（P. 36 参照）、バッテリーの液面が各槽とも上限と下限の間にあるか点検してください。

<補給>

バッテリー液が少ないときは、バッテリーを本機より外して、バッテリー補充液（蒸留水）を上限まで補給します。バッテリーの取り付け、取り外しはP. 82を参照してください。

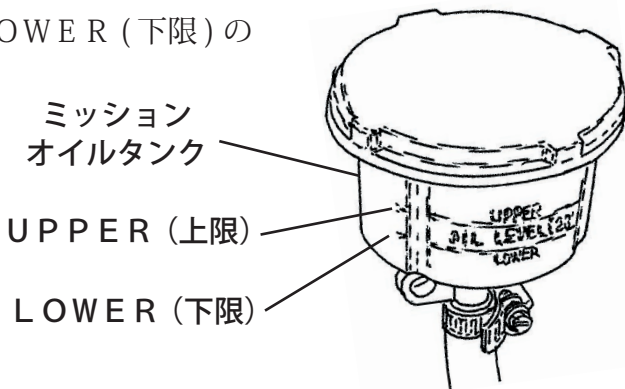


ミッションオイルの点検

<点検>

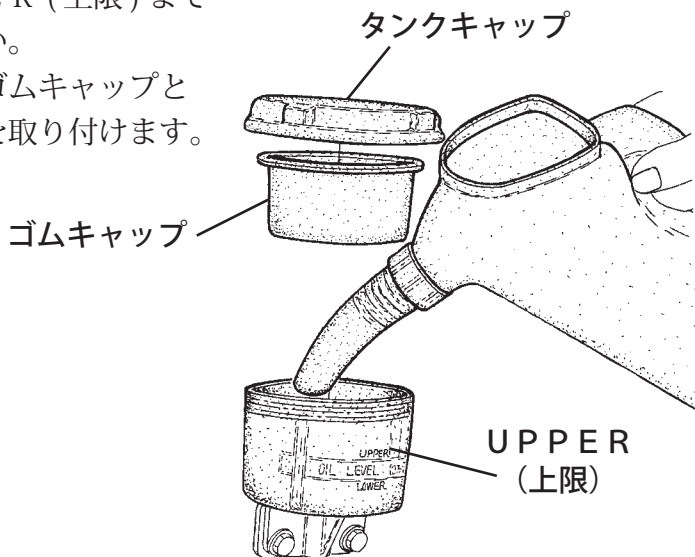
ミッションオイルの点検は、除雪機が冷えているときに行ってください。

ミッションオイルの液面がオイルタンクのUPPER (上限) とLOWER (下限) の間にあるか確認します。



<補給>

- 1) タンクキャップと内側のゴムキャップを外し、新しいミッションオイルをUPPER (上限) まで補給してください。
- 2) 補給後、確実にゴムキャップとタンクキャップを取り付けます。



指定オイル・・・ディーゼルエンジンオイル
SAE 10W-30 CD級以上
オイル容量・・・1.95リットル
(タンクの上限と下限の間にあること)

[参考]

補給時、タンクの中にゴミなどの異物が入らないように、
十分注意してください。

異物が混入すると、ミッションが故障する原因になります。

その他の点検

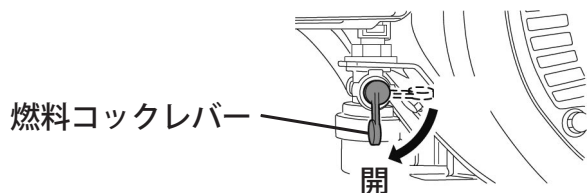
次の点検も忘れずに行ってください。

- 1) 燃料もれ、油もれはないか。
- 2) エンジン周辺にゴミや汚れが付着していないか。
- 3) 各部の締め付け、ゆるみ、ガタはないか。
- 4) クローラの損傷、ゆるみはないか。
- 5) 各部の作動状態は正常か。
- 6) 異常箇所・・・前日悪かったところはないか。(異音、振動、異臭など)

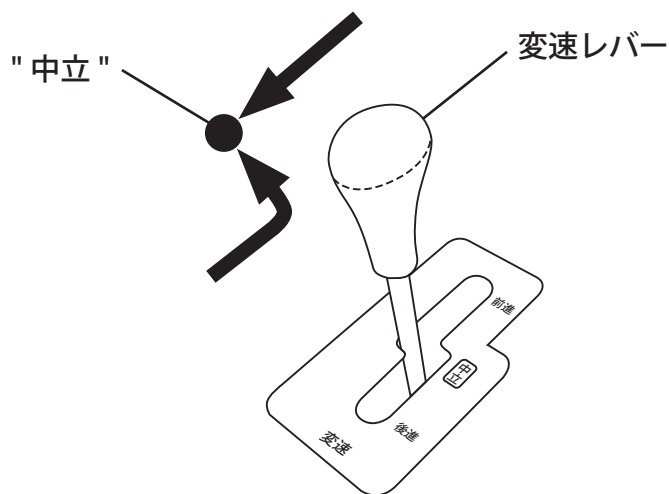
6章 運転・移動のしかた

1. エンジンの始動のしかた

1) 燃料コックを閉じている場合は、燃料コックを開きます。

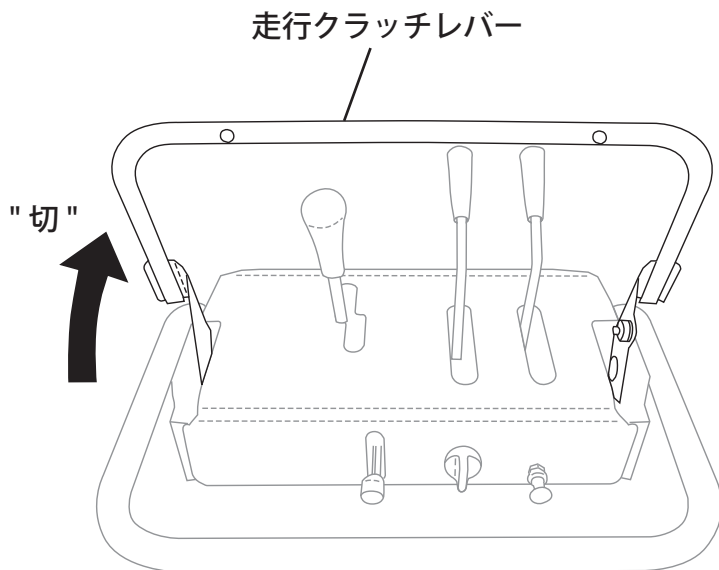


2) 変速レバーが「中立」位置にあることを確認します。

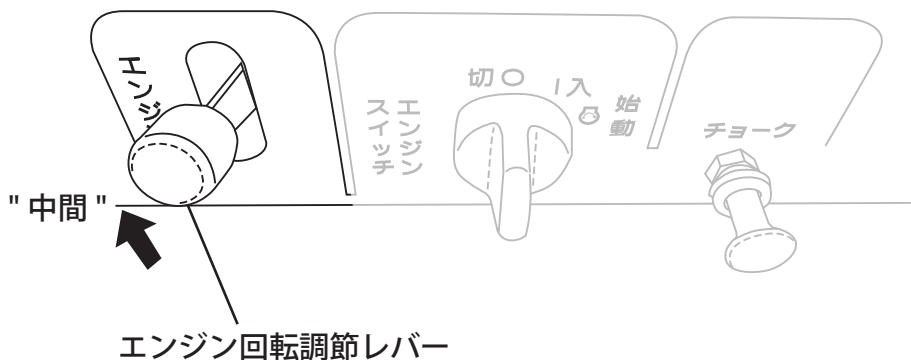


6章 運転・移動のしかた

3) 走行クラッチレバーが「切」位置にあることを確認します。



4) エンジン回転調節レバーを「高」と「低」の中間の位置にします。

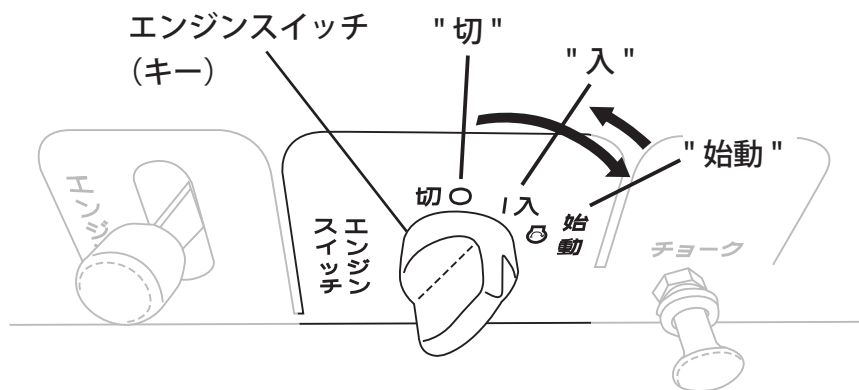


6章 運転・移動のしかた

5) 寒いときやエンジンがかかりにくいときは、チョークレバーを引いた状態にします。



6) エンジンスイッチ (キー) を「始動」位置まで回し、セルモータを回します。エンジンが始動したら、キーから手を離してください。(キーは「入」位置まで自動的に戻ります。)



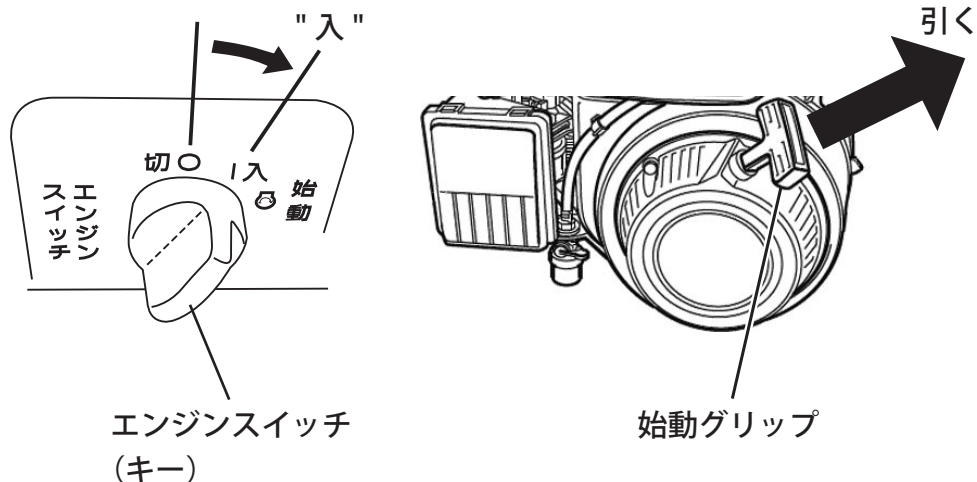
[重要]

セルモータを回して5秒以内にエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動の操作をしてください。

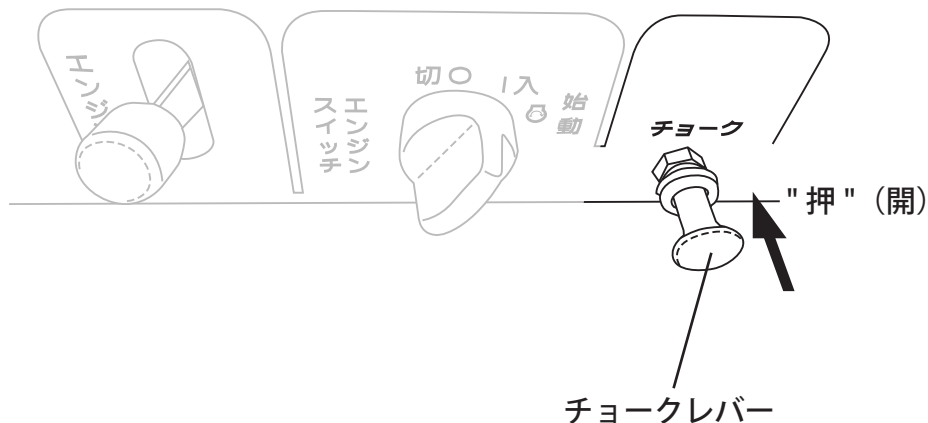
6章 運転・移動のしかた

《リコイルスターターを使用する場合》

エンジンスイッチ（キー）を「入」位置にして、始動グリップを勢いよく引きます。



7) チョークレバーを引いた状態にしてある場合は、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に戻します。



8) エンジン始動後は、負荷をかけずに暖機運転を行ってください。

2. 暖機運転のしかた

⚠ 危険

エンジンの暖機運転は、閉めきった屋内で行わないでください。
やむをえず屋内で暖機運転する場合は、十分に換気してください。
排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

- 1) エンジン始動後、エンジン回転調節レバーを「低」位置に戻し、エンジン回転を下げます。



[重要]

エンジンが暖まるまで、多少スモーク（黒煙）が出る場合があります。

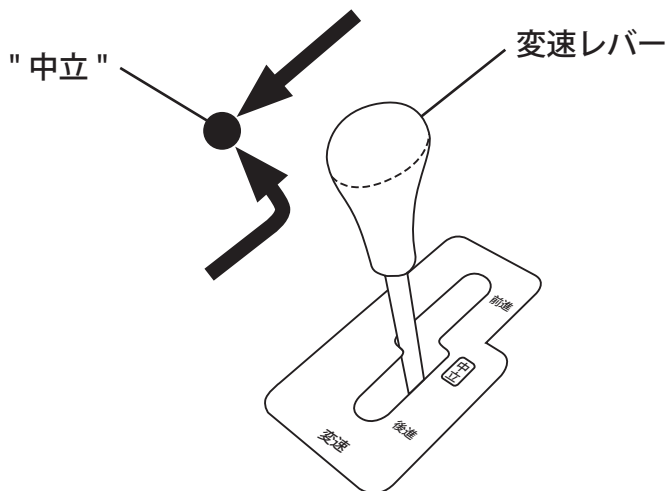
エンジンが暖まるまでは無理な負荷をかけないでください。

- 2) 約5分間は、負荷をかけずに暖機運転を行ってください。
その際には、以下の方法で油圧走行駆動装置（HST）の暖機を同時に行ってください。

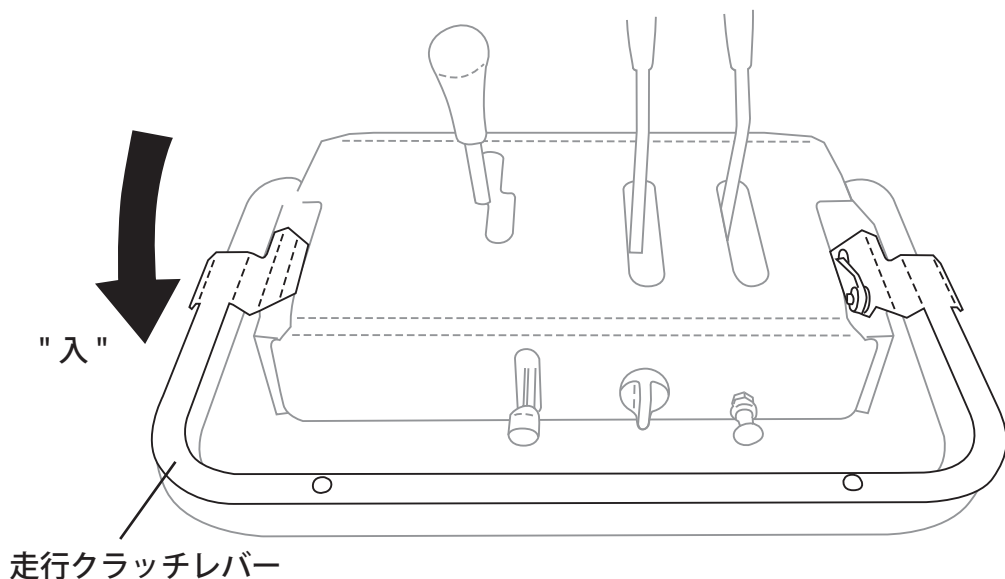
6章 運転・移動のしかた

《油圧走行駆動装置（H S T）の暖機のしかた》

2-1) 変速レバーが「中立」位置にあることを確認します。



2-2) 約3分間、走行クラッチレバーを握り続けてください。



[重要]

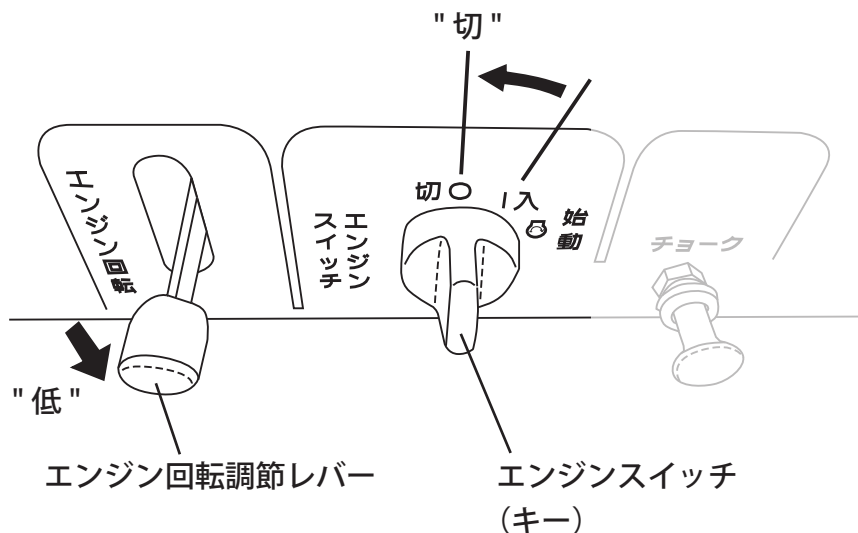
このとき、機械が動き出さないことを確認しながら、ゆっくり走行クラッチレバーを握ってください。

3. エンジンの停止のしかた

! **注意**

エンジンを停止しても、エンジンやマフラーなどの過熱部分にはすぐに触れないでください。守らないと、火傷をするおそれがあります。

- 1) エンジン回転調節レバーを「低」位置にして1～2分間運転します。
- 2) エンジンスイッチ（キー）を「切」位置にします。



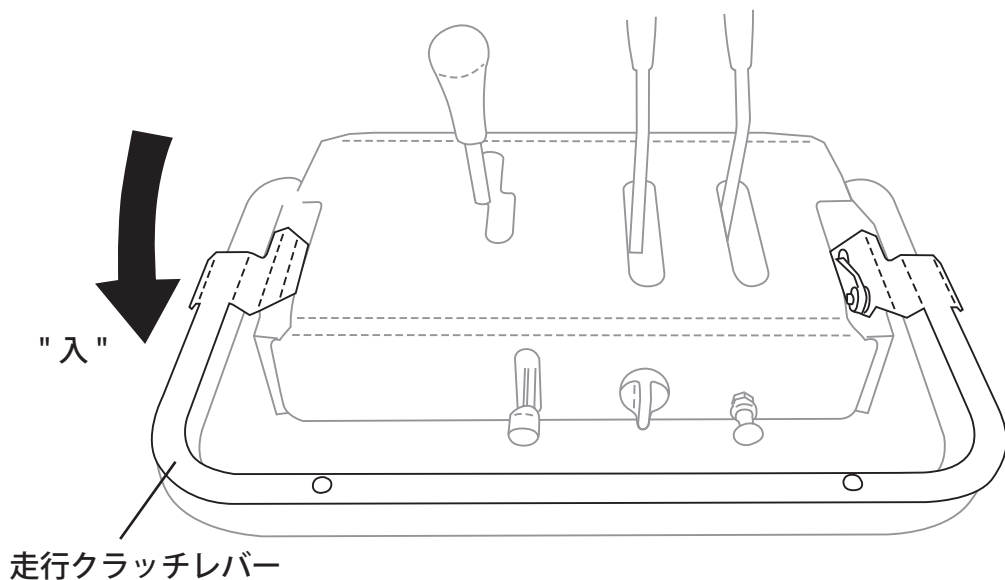
4. 発進のしかた



- 発進するときは、周囲の安全を確認してください。
- 周囲に人がいる場合は、必ず発進の合図をしてください。
守らないと、傷害事故の原因になります。
- 発進はゆっくり行ってください。急発進をすると、傷害事故の原因になります。
- 後進するときは、後方の障害物や足もとの安全を確認しながら、低速で行ってください。
守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 走行中はわき見運転や手放し運転をしないでください。
守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 走行中は、雪に隠れた坂道、凹凸道、カーブ、路肩などに十分注意してください。守らないと思わぬ事故の原因になります。
- 緊急時以外は、走行中に走行クラッチレバーから手を離さないでください。守らないと 急停止による事故の原因になります。
- -10℃以下での低温作業では、始めの暖機運転を十分に行い、移動は低速で走行してください。約10分間くらいの低速走行や除雪作業で走行駆動装置が暖まります。
守らないと思わぬ事故の原因になります。

6章 運転・移動のしかた

- 1) エンジンを始動します。
(P. 43 「1. エンジンの始動のしかた」参照)
- 2) 走行クラッチレバーを「入」位置にします。



[参考]

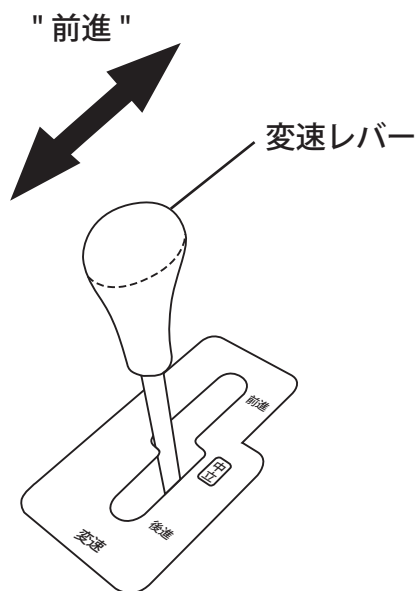
走行クラッチレバーの「入」位置への操作は、エンジン回転調節レバーを「低」位置にして行ってください。

6章 運転・移動のしかた

3) エンジン回転調節レバーを「高」位置にします。

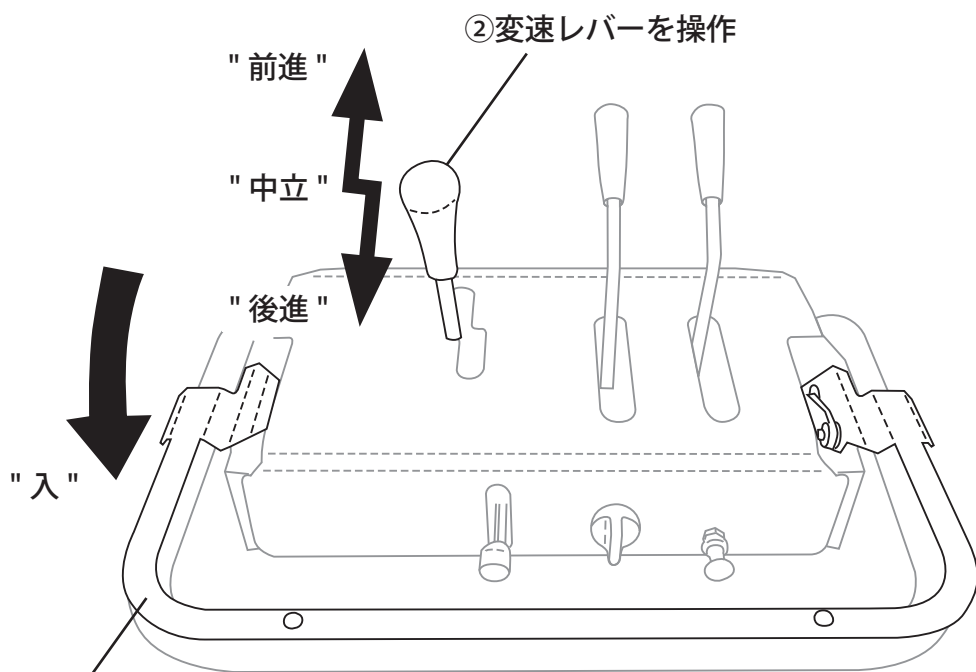


4) 変速レバーを前進側に入れ、レバーの位置を選び、車速を決めます。



5. 変速のしかた

- ・走行中の変速は、走行クラッチレバーを握ったまま変速レバーで操作してください。無段階の調節ができます。
- ・「前進」「後進」の切り替えは、走行クラッチレバーを握ったまま変速レバーを「中立」位置に戻し、機械が完全に停止してから行ってください。



①走行クラッチレバーを握ったままで

[重要]

前後進の切り替えはゆっくり行ってください。停止していない状態で切り替え操作をすると、ミッションの破損の原因になります。

6. 旋回のしかた

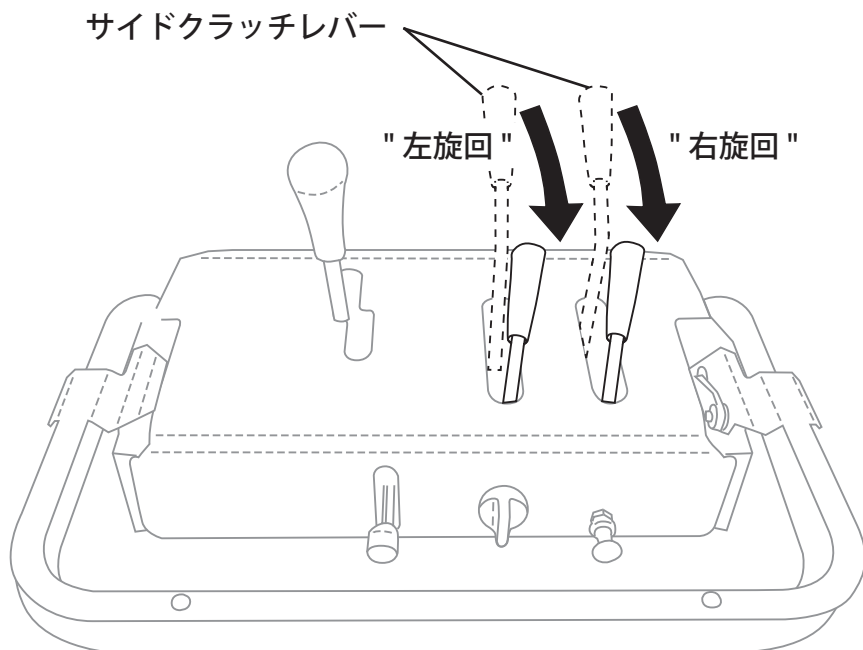


- ・高速での急旋回は危険です。必ず速度を落として行ってください。守らないと機械の転倒・暴走などの事故の原因になります。
- ・急な坂道での旋回操作はしないでください。守らないと機械の転倒・暴走などの事故の原因になります。やむを得ないときは、横転や反対方向への曲がりに注意して、低速で小さな旋回の操作をしてください。

旋回したい方のサイドクラッチレバーを手前に引きます。

右旋回・・・右側のサイドクラッチレバーを引く。

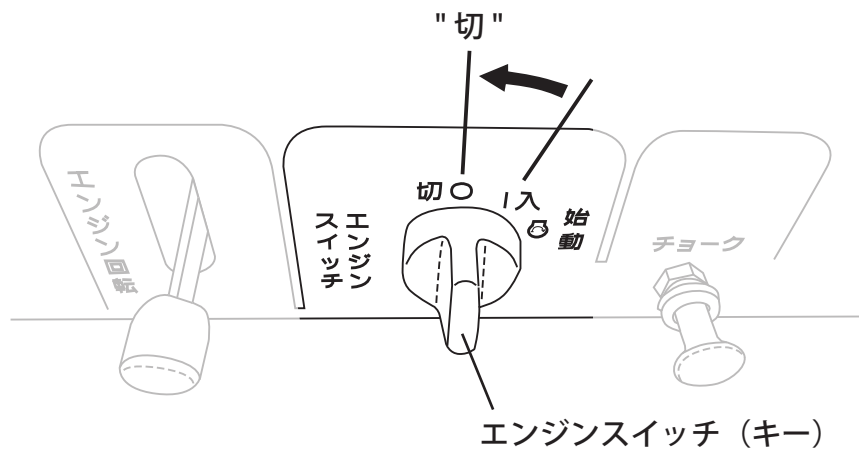
左旋回・・・左側のサイドクラッチレバーを引く。



7. 停車のしかた

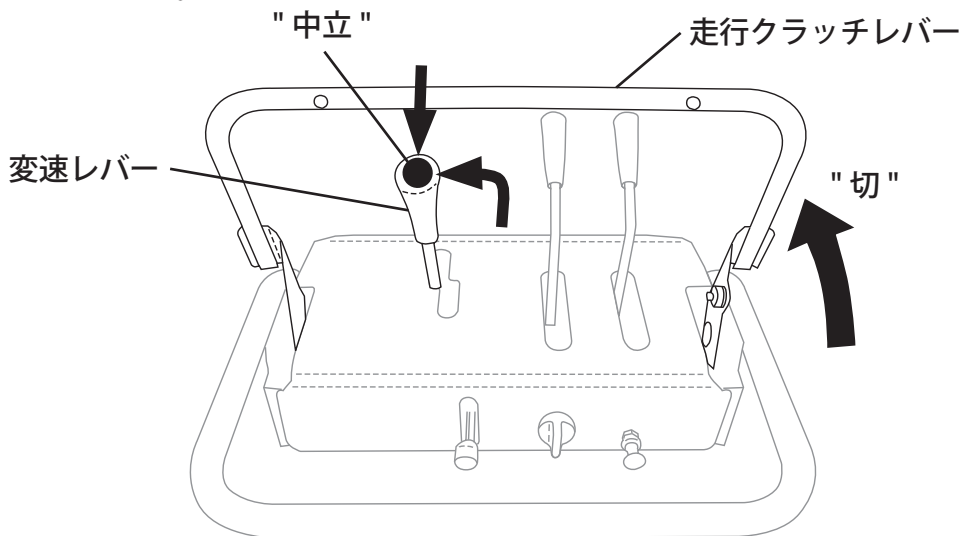
7-1. 緊急にエンジンを停止する場合

エンジンスイッチ（キー）を「切」位置にします。



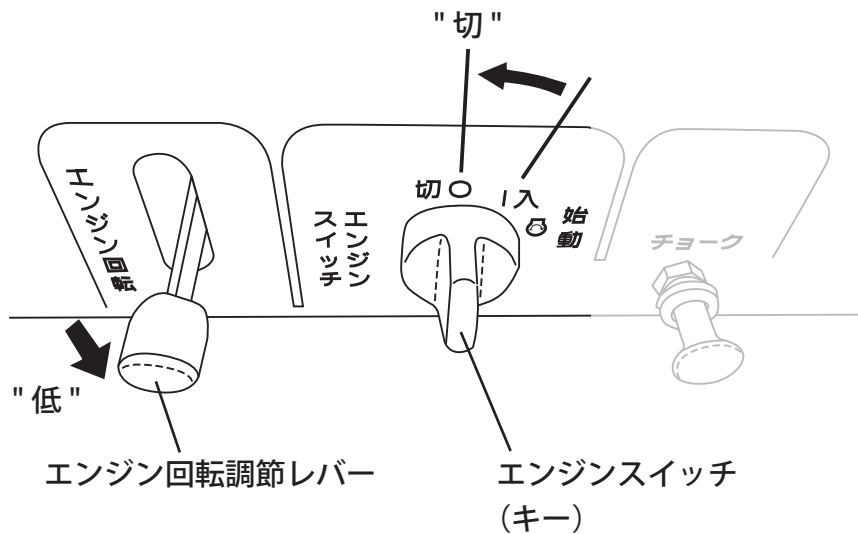
7-2. 通常に停止する場合

1) 走行クラッチレバーを「切」位置にして、変速レバーを「中立」位置にします。



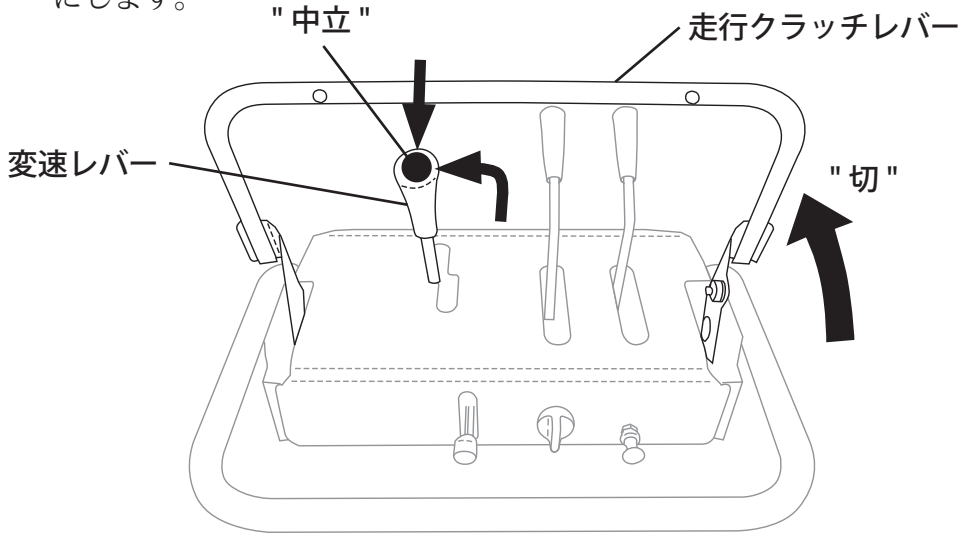
6章 運転・移動のしかた

- 2) エンジン回転調節レバーを「低」位置にして1～2分間運転します。
- 3) エンジンスイッチ（キー）を「切」位置にします。

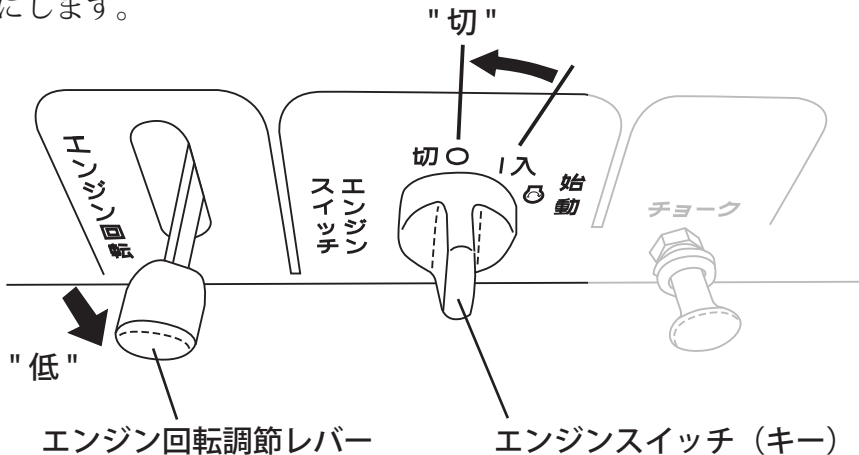


8. 駐車のしかた

- 1) 平坦で安全な場所へ移動してください。
- 2) 走行クラッチレバーを「切」位置にして、変速レバーを「中立」位置にします。



- 3) エンジン回転調節レバーを「低」位置にします。
- 4) 1～2分間運転してから、エンジンスイッチ（キー）を「切」位置にします。



9.トラックでの運搬のしかた



- ・積み込み・積み降ろしをする場所は、平坦で安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- ・積み込むトラックは、車止めなどで動かないように処置してください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- ・アユミ板は基準に合ったものを使用してください。守らないと転落事故の原因になります。
- ・本機の前後には人を立たせないようにしてください。機械が不意に動いたときに、思わぬ事故をまねくおそれがあります。
- ・トラックの荷台に積み込んだ機械は、丈夫なロープで確実に固定してください。守らないと、転落事故の原因になります。

9-1. アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

<アユミ板の基準>

強度	機体の重量＋作業者の体重に十分耐える強度のあるもの
幅	機械のクローラ幅の1.2倍以上
長さ	荷台の高さの4倍以上
表面	すべり止めのあるもの
	：荷台に引っ掛けるためのフックのあるもの

9-2. トラックの準備

- 1) トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。
- 2) トラックの変速は、「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けてください。
- 3) タイヤに車止めをしてください。
- 4) トラックの荷台にアユミ板のフックを、段差ができないように確実に掛けてください。



- ・機械がアユミ板と荷台の継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので、最低速度で慎重に移動してください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。
- ・積み込み・積み降ろしを行うときは、必ずハンドルを持った状態で行ってください。守らないと、機械のバランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。



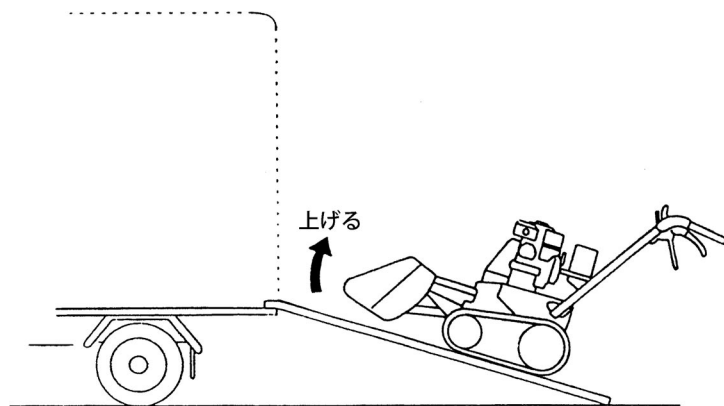
アユミ板の上ではクラッチレバーと、
変速レバー「中立」操作厳禁。

トラックへの積み込み・積み降ろしは、アユミ板の上で進路変更をしないように進路を定めて低速で行ってください。変速レバーを「中立」位置にしたり、走行、サイドクラッチの操作はしないでください。守らないと、転落などの事故をまねくおそれがあります。

6章 運転・移動のしかた

9-3. 除雪機の積み込みかた

- 1) アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように方向を定め、「前進」または「後進」で慎重に積み込んでください。



- 2) 積み込み位置まできたら、P. 57「8. 駐車のかた」を参照し、駐車してください。
- 3) ハンドルパイプなどのしっかりした部分に十分強度のあるロープを掛けて、機械を確実に固定してください。

9-4. 除雪機の降ろしかた

- 1) 機械を固定しているロープを外してください。
- 2) 除雪機は、「前進」または「後進」で慎重に降ろしてください。

7章 除雪作業のしかた



- ・傾斜地では、斜めに登ったり、斜面に対して平行に走行しないでください。スベリや転倒のおそれがあります。
- ・エンジンを18度以上傾けたまま連続運転するとエンジン故障のおそれがあり危険ですので、急斜面での運転はしないでください。
- ・急な坂道での除雪作業はしないでください。
転倒やスリップによる事故のおそれがあります。
- ・機械の回転部、可動部は、注意をおこたったり取扱いを誤ると大変危険です。除雪作業にあたっては、安全のため以下の要領で行ってください。

1. 発進の要領

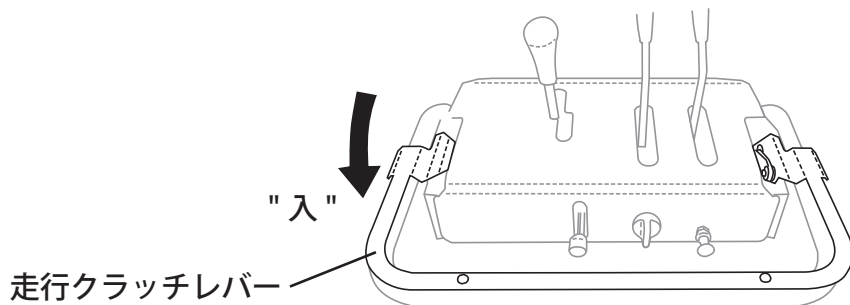
- 1) 必要に応じてブレード角度を調整します。
(P. 63 「2. ブレード角度の変更」参照)
- 2) エンジンを始動します。
(P. 43 「1. エンジンの始動のしかた」参照)

[参考]

各クラッチレバーの「入」位置への操作は、エンジン回転調節レバーを「低」位置に行ってください。

7章 除雪作業のしかた

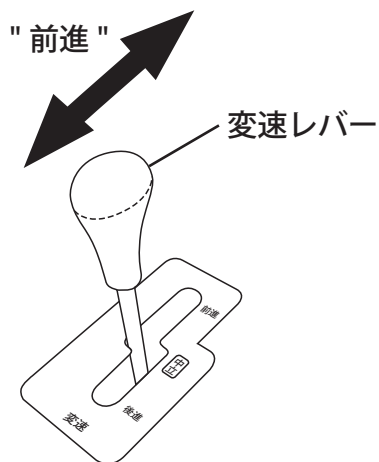
3) 走行クラッチレバーを「入」位置にします。



4) エンジン回転調節レバーを「高」位置にします。



5) 変速レバーを前進側に入れ、
雪質、積雪量にあわせて
レバーの位置を選び、車速を
決めます。



2. ブレード角度の変更

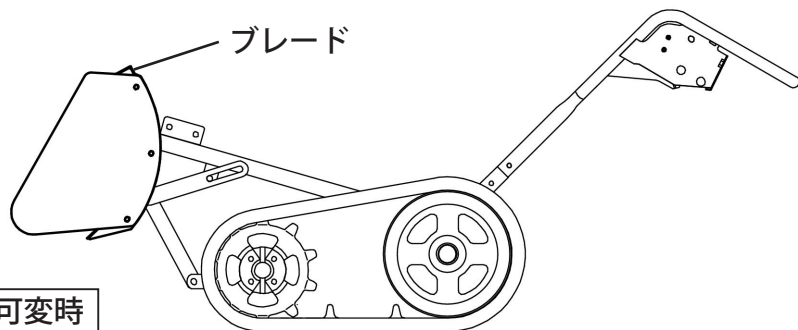
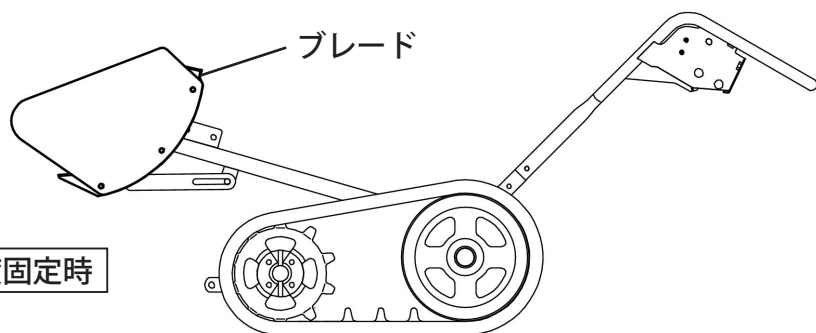
本機のブレードは持ち上げたときの角度を以下の2通りに変更できます。

角度固定・・・ハンドルを押し下げるとブレードが傾きます。

角度可変・・・ハンドルを押し下げてもブレードが傾きません。

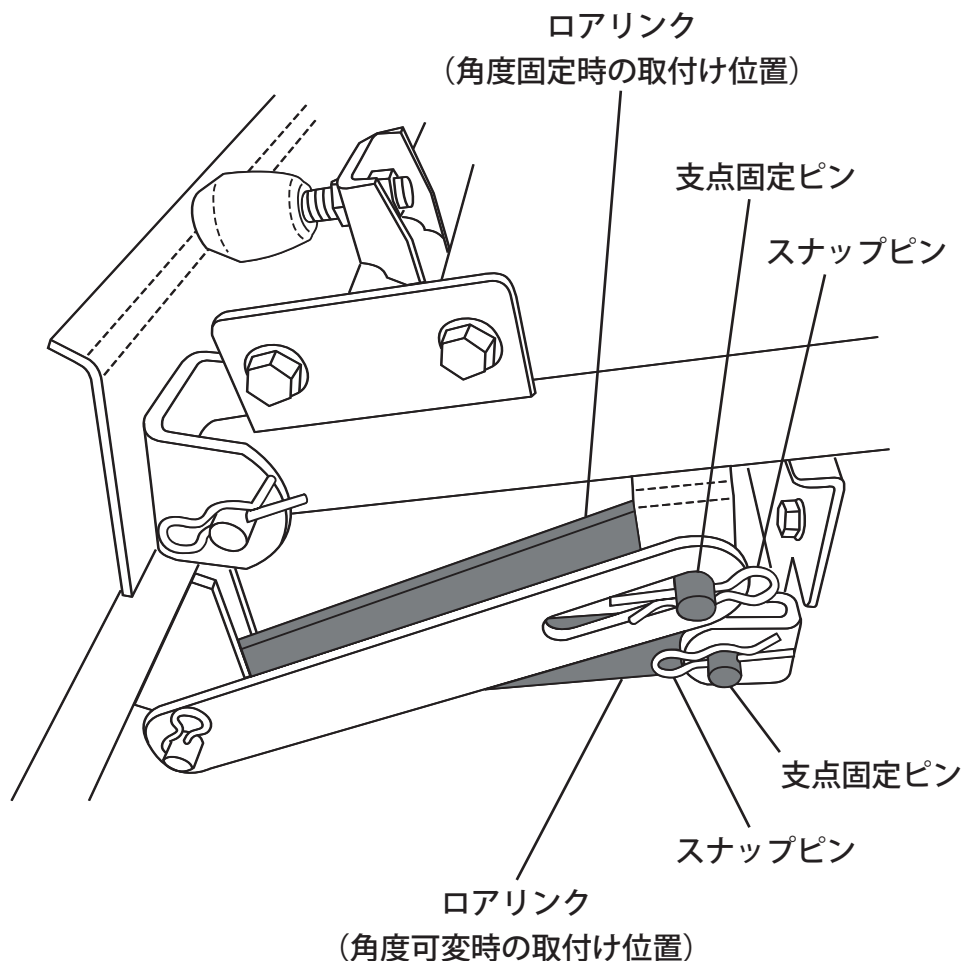


ブレード角度の変更はエンジンを停止して行ってください。
守らないと機械に巻き込まれ重傷を負うおそれがあります。



<ブレード角度の変更のしかた>

- 1) クラッチを切り、エンジンを停止します。
- 2) 支点固定ピンとスナップピンを取り外し、ロアリンクの固定位置を変更します。
- 3) 支点固定ピンとスナップピンを元通りに取り付けます。
- 4) 反対側のロアリンクも同様に固定位置を変更します。



3. 除雪作業の要領

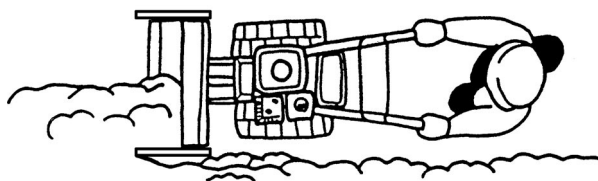
除雪作業は、エンジン回転を落とさずに行うことが重要です。そのためには、雪による過負荷をさけるため、低速で作業を行ってください。

速度を下げてもエンジン回転が低下する場合は、次の方法を参考にして除雪作業を行ってください。

●除雪幅を狭くする方法

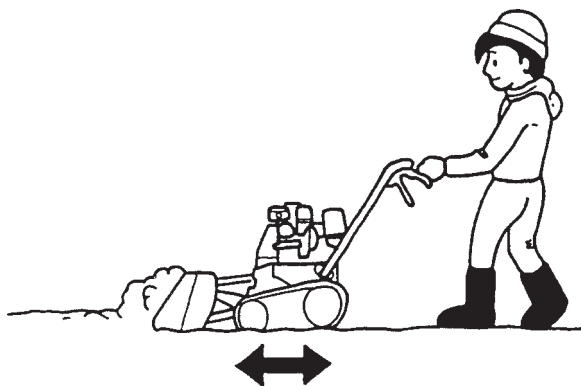
深い雪や、固くなった雪の場合は、速度を下げても除雪してください。

また、このようなときは、ブレードにかかる雪幅を狭くしてください。



●前後進除雪の方法

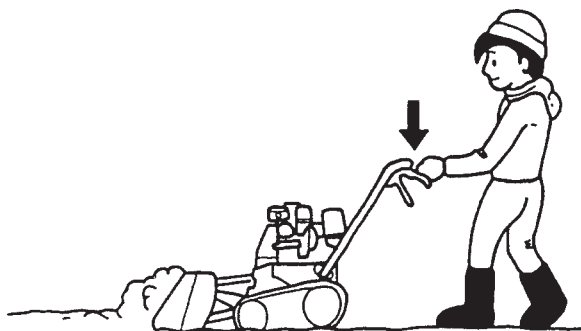
固くなった雪などでブレードが乗り上げるようなときには、前・後進を繰り返して除雪してください。



●ハンドルを下に押し付ける方法

ブレードに雪がたまった状態で、クローラがスリップ（空転）してしまったような場合は、ハンドルに下方向の力を加えて押し付けることで、クローラに荷重が掛かり、駆動力を増加させることができます。

ただし、クローラが停止してしまうような場合は負荷が重すぎるので、それ以上押し続けることは避けてください。



8章 定期点検

1. 定期点検

お客様ご自身で行っていただける点検・整備項目の他に、お買い上げいただいた販売店で定期的実施していただく項目があります。機械の整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズン毎に整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

2. 点検・整備項目一覧表（○印は点検です。★の項目については適切な工具と整備技術を必要としますので、お買い上げいただいた販売店にお申し付けください。）

点検・調整箇所	内容	20 時間	100 時間 (1 年毎)	200 時間 (2 年毎)	500 時間	参照 ページ
エンジンオイル	交換	交換 (初回)	交換			6 9
エアクリーナー	清掃		清掃			7 1
	交換			交換		7 2
燃料ストレーナ	点検・清掃		○			7 3
点火プラグ	点検・清掃		○			7 4
クローラ	張り調整		調整			7 6
ドライブピン	交換	必要に応じて				7 8
バッテリー	点検	必要に応じて				8 0
ヒューズ	点検	必要に応じて				8 4
電気部品・ 配線コード	点検		○★			—
走行ベルト	摩耗・張り 点検・調整		○★			—
各ワイヤー	点検・調整		○★			—
変速機オイルホース	点検		○★			—
燃料タンク	清掃		清掃★			—
燃料パイプ	交換		交換★ (1 年毎)			—
キャブレター	清掃			清掃★		—
変速機オイル	交換			交換★		—
シリンダヘッド	清掃 (カーボン除去)				清掃★	—
吸排気弁	点検				点検★	—
弁すきま	調整				調整★	—

[重要]

定期点検を受けられても走行ベルトは、お客様のご使用状況によりベルト寿命が異なります。シーズン中でも異常を感じたときは、販売店での整備を受けてください。

[参考]

オイルの種類と量、ベルトのサイズ、ヒューズの容量は、エンジン回転調節レバー付近にも記載されています。

[重要]

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや、排水溝、河川、湖沼、海洋などへの投棄はしないでください。

廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルター、バッテリー、ゴム類、その他の有害物質を廃棄または焼却するときは、法令に従い適正に処理してください。

不明な場合は購入先または産業廃棄物処理業者にご相談の上処理してください。

※ 廃棄物処理法、水質汚濁防止法

9章 点検・整備のしかた

1. エンジンオイル

エンジンオイルが汚れていると、機械の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル量を守りましょう。

[重要]

点検するときは、除雪機を水平な場所に置いてください。傾いていると、正確な量が確認できません。オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。

<交換時期>

初回 20時間運転後

以後、100時間運転毎または1年毎のいずれか早い方

<推奨オイル、容量>

推奨オイル・・・4サイクルガソリンエンジンオイル

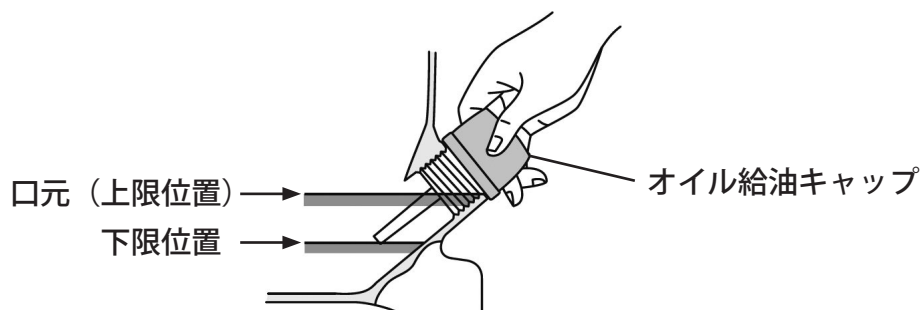
SAE 5W-30 SE級以上

オイル容量・・・0.6リットル（給油口の口元までであること）

<エンジンオイルの交換>

<必要工具> 14mmのスパナ、トイCOMP（付属品）

- 1) オイル給油キャップを外します。
- 2) トイCOMPを下図のようにセットし、オールドレンボルトを外してオイルを容器に受けてください。
(パッキンを紛失しないよう注意してください。)
- 3) オイルが抜けたら、オールドレンボルトを確実に締めます。
- 4) 新しいオイルを給油口の口元まで給油します。
- 5) 給油後、キャップを確実に閉めます。



2. エアクリナー

エアクリナーエレメントの汚れがひどくなると、運転に不調をきたすばかりでなく、機械の寿命を著しく縮めます。いつもきれいなエアクリナーエレメントにしておくように心掛けてください。



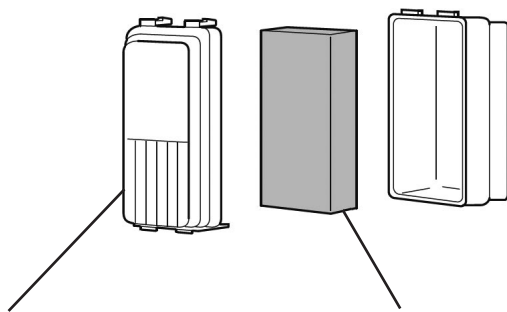
- ・ 洗油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
- ・ 清掃は換気の良い場所でおこなってください。

<清掃時期>

100時間運転毎

<エアクリナーの清掃>

- 1) エアクリナーカバーを外して、エアクリナーエレメントを取り出します。
- 2) エアクリナーエレメントを洗油（白灯油）または、家庭用洗剤で洗浄後、エンジンオイルに浸し、固く絞ってから取り付けます。
- 3) エアクリナーカバーを元通りに取り付けます。



エアクリナーカバー

エアクリナーエレメント

<交換時期>

200時間運転毎

<エアクリーナーエレメントの交換>

エアクリーナーカバーを外し、エアクリーナーエレメントを取り出して交換します。交換後はエアクリーナーカバーを元通りに取り付けてください。

エアクリーナーエレメント

品番：21H-32610-08

3. 燃料ストレーナ



- ・洗油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
- ・清掃は換気の良い場所でおこなってください。

<清掃時期> 100時間運転毎または1年毎のいずれか早い方

<清掃のしかた>

- 1) ストレーナカップ内に水やゴミがたまっていないか調べます。
- 2) 水やゴミがたまっているときは、燃料コックを閉じて、ストレーナカップを外します。
- 3) ストレーナカップ内の水やゴミを捨て、洗油（白灯油）で洗い、ストレーナカップを元通りに取り付けます。



4. 点火プラグ

電極が汚れていたり、プラグすきまが不適當な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。



エンジン停止直後はエンジン本体、点火プラグの温度が高いため、エンジンが冷めてから点火プラグを外してください。高温部によって火傷をするおそれがあります。

[重要]

指定プラグ：品番・・・065-01402-70

品名・・・スパークプラグ (NGK BPR4HS)

- ・故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。
- ・プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず軽く指でねじ込み次にプラグレンチで確実に締め付けてください。
- ・点検調整後はプラグキャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

<清掃・点検時期>

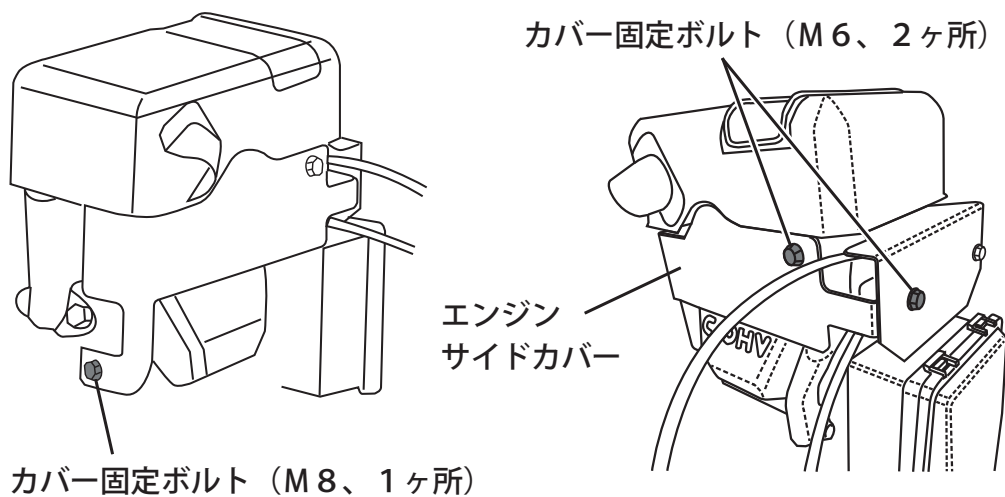
100時間運転毎または1年毎のいずれか早い方

<点火プラグの清掃>

<必要工具> 10mm と 12mm のスパナ、プラグレンチ (付属品)

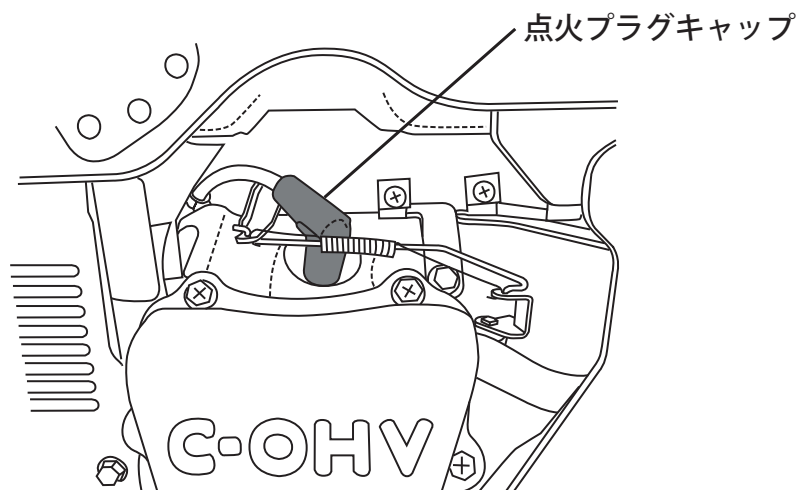
9章 点検・整備のしかた

1) カバー固定ボルトを外し、エンジンサイドカバーを外します。



2) 点火プラグキャップを外して、プラグレンチで点火プラグを取り外します。

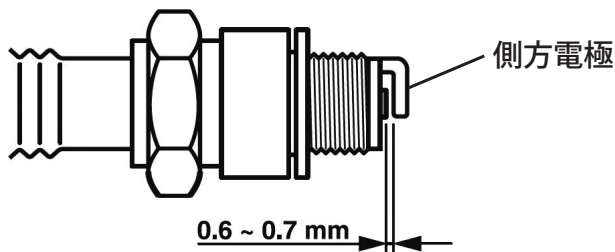
3) 汚れている場合はワイヤブラシ等で側方電極部を清掃してください。



<点火プラグの点検・調整>

<必要工具> プラグレンチ（付属品）、プラグすきまゲージなど

- 1) プラグすきまが0.6～0.7 mmの範囲になっているかを点検し、範囲外の場合は、側方電極を曲げてプラグすきまを0.6～0.7 mmに調整します。



- 2) 取り付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締め付け、プラグキャップを確実に取り付けます。

5. クローラ張り調整

[重要]

クローラの張り出し寸法が正常でないと、クローラが外れたり、寿命を著しく縮める原因になります。

<調整時期>

100時間運転毎または、1年毎のいずれか早い方

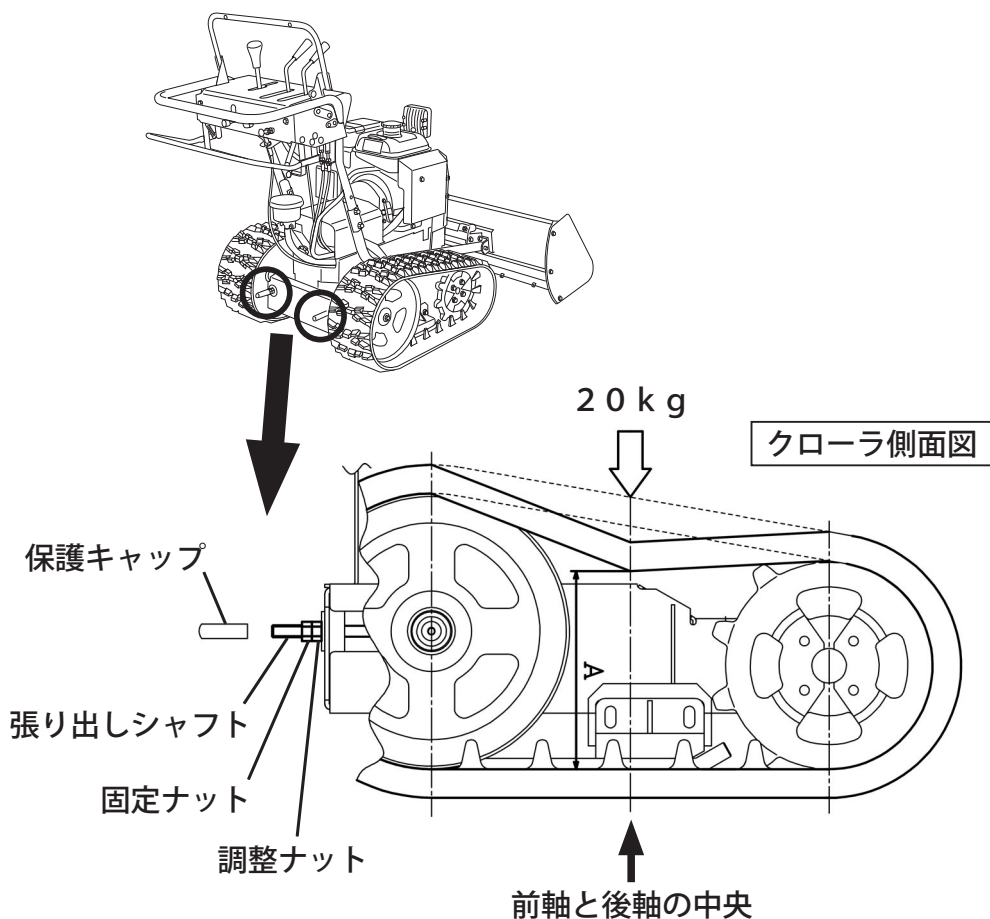
<点検のしかた>

クローラの前軸と後軸の中央を20 kgで押したとき、Aの長さが220～230 mmになっているか点検します。

<調整のしかた>

<必要工具> 17mm のスパナ

- 1) 張り出しシャフトの保護キャップを取り外します。
- 2) 固定ナットをゆるめ、クローラの前軸と後軸の中央を20kgで押したとき、Aの長さが220～230mmになるように調整ナットを調整します。その際は、左右同じになるように調整してください。
- 3) 調整後、確実に固定ナットを締め付けます。
- 4) 保護キャップを元通りに取り付けます。



6. ドライブピン

ドライブピンが破損するとクローラに動力が伝わらなくなるので、破損時は新しいドライブピンに交換してください。

※ドライブピンは、異物の噛み込みなどの異常な負荷が加わったときに、本機を保護するために切れるしくみになっています。



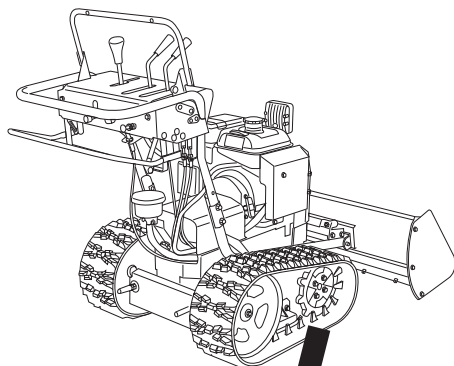
下記の4)～6)の作業の際は、必ずエンジンが停止していることを確認して行ってください。

<交換のしかた>

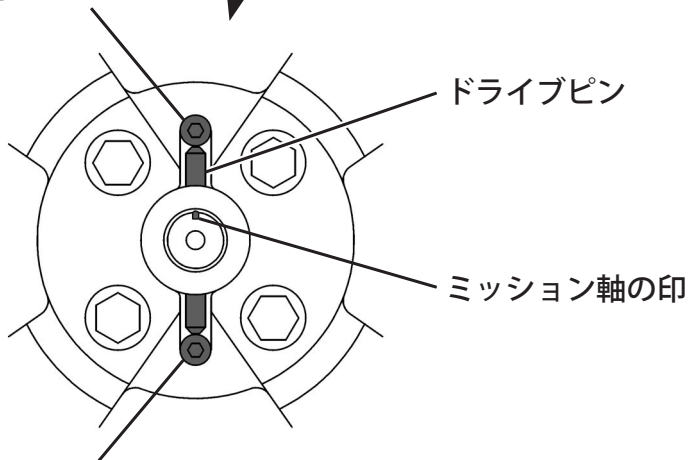
<必要工具> 6カクレンチ5 (付属品)

- 1) 機体を前後進させ、図のように2ヶ所のドライブピン固定ボルトが上下に並ぶように移動します。
- 2) サイドクラッチを切りながらゆっくり前後進させて、ミッション軸の印を図のように上向きに合わせます。
- 3) エンジンを停止します。(P. 49「3. エンジンの停止のしかた」参照)
- 4) 付属の6カクレンチ5を使用し、ドライブピン固定ボルトを取り外します。
- 5) 破損したドライブピンを取り除いて、下側のドライブピン固定ボルトを締め付けます。
- 6) ドライブピンを上から入れて、上側のドライブピン固定ボルトを締め付けます。

ドライブピン (標準付属品、2ヶ付属)
品番：26902-B90-003



ドライブピン固定ボルト



ドライブピン固定ボルト

7. バッテリー

危険

- ・バッテリーの交換時には、必ず防護メガネとゴム手袋を着用してください。

警告

- ・バッテリーの点検時、液槽キャップを開けたときは火気厳禁です。
- ・バッテリー液を身体や衣服につけないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
- ・バッテリー端子を取り外すときは、マイナス側を先に外します。取り付けるときは、プラス側を先に取り付けます。これを怠るとショートして火花が飛んだりします。

※交換した古いバッテリーは放置したり捨てたりせず、処分するときは購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

指定バッテリー

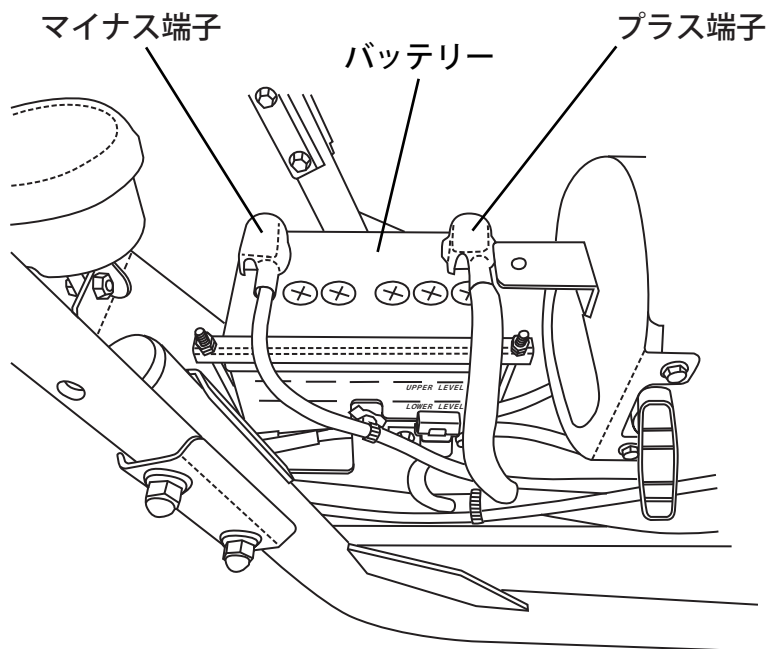
品番----- 91890-040B19R

品名----- バッテリー 40B19R

7-1. バッテリー端子部の手入れ

端子部にゆるみ、腐食がないか確認します。ゆるんでいるときは締めてください。端子に白い粉がついているときは、バッテリーを本機から取り外し、ぬるま湯で清掃してください。

端子部が腐食している場合は、ワイヤーブラシかサンドペーパーでみがいてください。



7-2. バッテリーの取り付け、取り外し

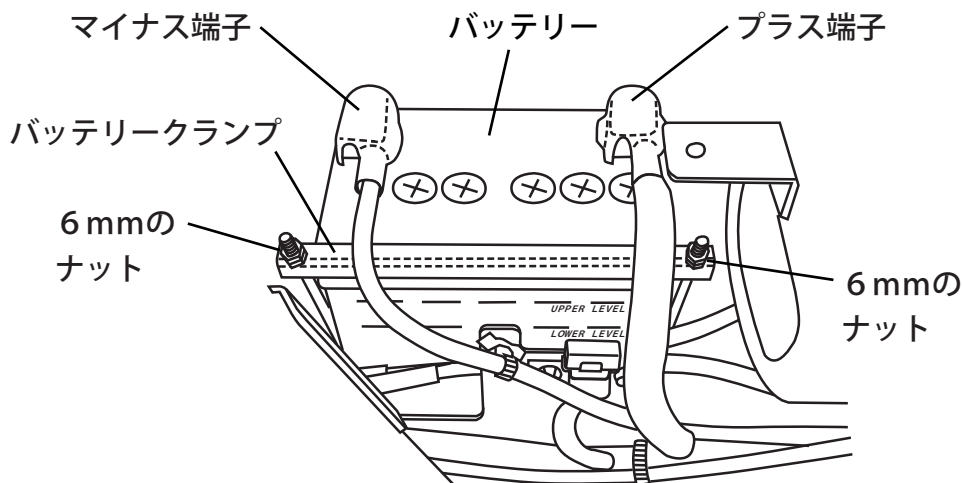
〈必要工具〉 10mm のスパナ、又はメガネレンチ

●取り外し

- 1) メンテナンスカバーを外します。(P. 36 参照)
- 2) バッテリーのマイナス端子の接続を外します。
- 3) バッテリーのプラス端子の接続を外します。
- 4) 6mm のナット (左右各2個) をゆるめ、バッテリークランプを外し、バッテリーを引き出します。

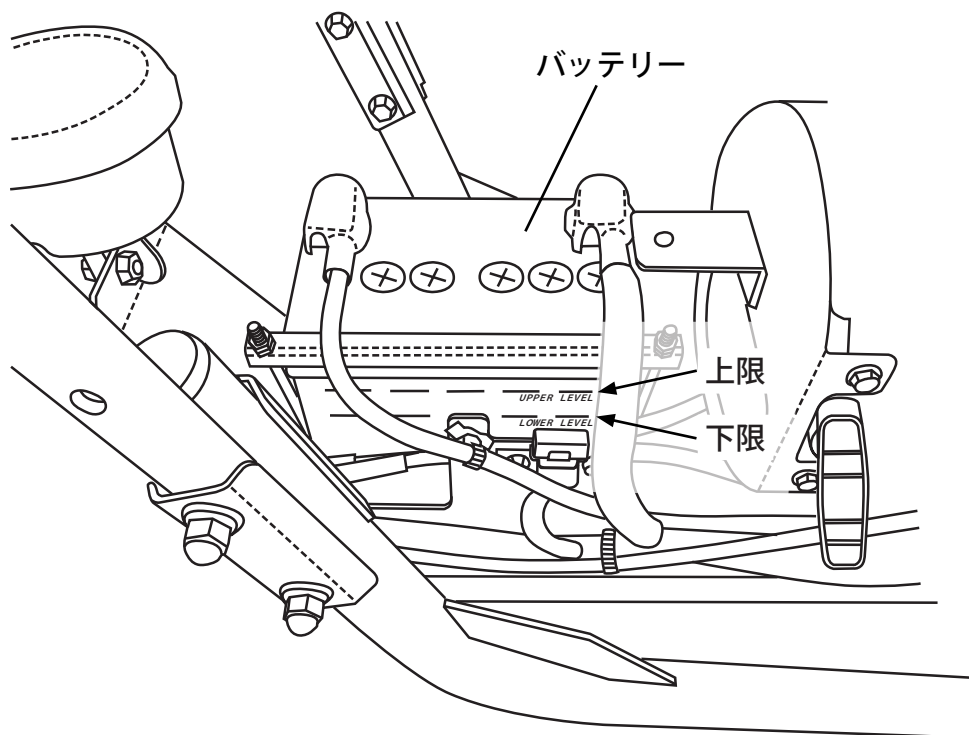
●取り付け

- 1) バッテリーをセットします。
(プラス側が本機前側になるように。)
- 2) バッテリーのプラス端子を接続します。
- 3) バッテリークランプの組付け
6mm のナットを左右各1個ずつ締めつけて固定します。
- 4) 残りの6mm のナットにて左右をロックします。
- 5) バッテリーのマイナス端子を接続します。
- 6) メンテナンスカバーを取り付けます。



7-3. バッテリー液の補給

バッテリー液が少ないときは、バッテリーを本機より外して、バッテリー補充液（蒸留水）を上限まで補給します。



バッテリー液を「下限（LOWER）」
以下にしない

バッテリー液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

守らないと容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花がでて、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

8. ヒューズ

<点検時期>

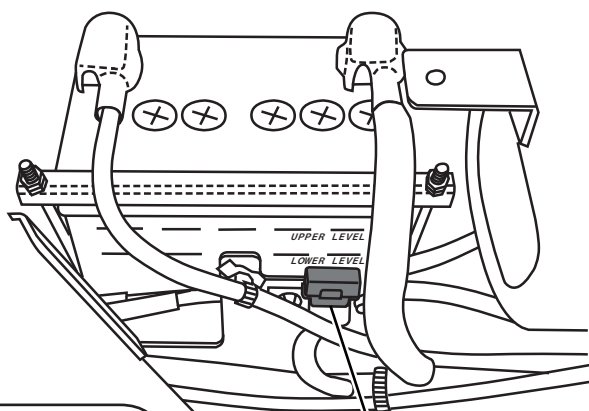
電気系統に異常があるときに点検してください。

<ヒューズの点検・交換のしかた>

メンテナンスカバーを外し（P. 36参照）、ヒューズボックス内のヒューズが切れていないか点検します。

切れている場合は、指定のヒューズに交換してください。ヒューズは、つまんで引くと抜けます。

また、交換した場合は、確実にヒューズを差し込んでください。



品番・・・91811-110

品名・・・ブレードヒューズ 10A

ヒューズボックス



警告

ヒューズが切れたときは、その原因を調べてから同容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。守らないと、火災につながる恐れがあります。

9. 燃料の抜きかた



警告

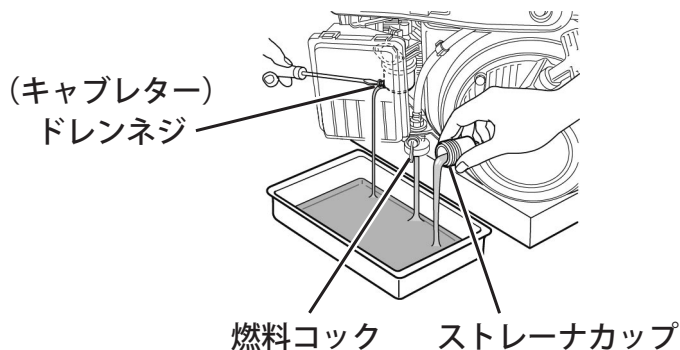
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故をひきおこすことがあります。

ガソリンを抜くときは

- エンジンを停止してください。
- 火気を近づけないで下さい。
- 換気のよい場所で行ってください。
- マフラーなどの過熱部が十分に冷めてから行ってください。
- ガソリンをこぼさないように抜いてください。

万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。

- 1) キャブレターのドレンネジをゆるめて、ガソリンを容器に受けます。
 - 2) 燃料コックレバーを閉じて、ストレーナカップを取り外します。
(P. 73 参照)
 - 5) 燃料コックレバーを開いて、ガソリンを容器に受けます。
 - 6) 燃料が抜けたらストレーナカップを取り付けます。
 - 7) キャブレターのドレンネジを締めます。
- 再び作業する際には、燃料を補給してください。(P. 38 参照)



10章 長期間使用しないときの手入れ

除雪シーズンが終わり長期間保管するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

1. 保管するときはエンジンスイッチ（キー）を外してください。
2. バッテリーのマイナス端子の接続を外してください。（P. 82 参照）
3. 燃料タンク、キャブレター内のガソリンを抜いてください。
（P. 85 参照）
4. エンジンオイルを交換してください。（P. 69 参照）

[重要]

- ・ガソリンは自然に劣化しますので、必ず抜いてください。
- ・エンジン、ミッション、HSTのオイルは自然に劣化します。
使用しない場合でも定期的に交換してください。
- ・作業を終わり長期間使用しないで格納するときは、バッテリーが放電しますので6 ヶ月に一度、および除雪時期のはじめと終わりに補充電を行ってください。
なお、補充電するときは必ずバッテリーを本機より取り外して行ってください。

10章 長期間使用しない時の手入れ

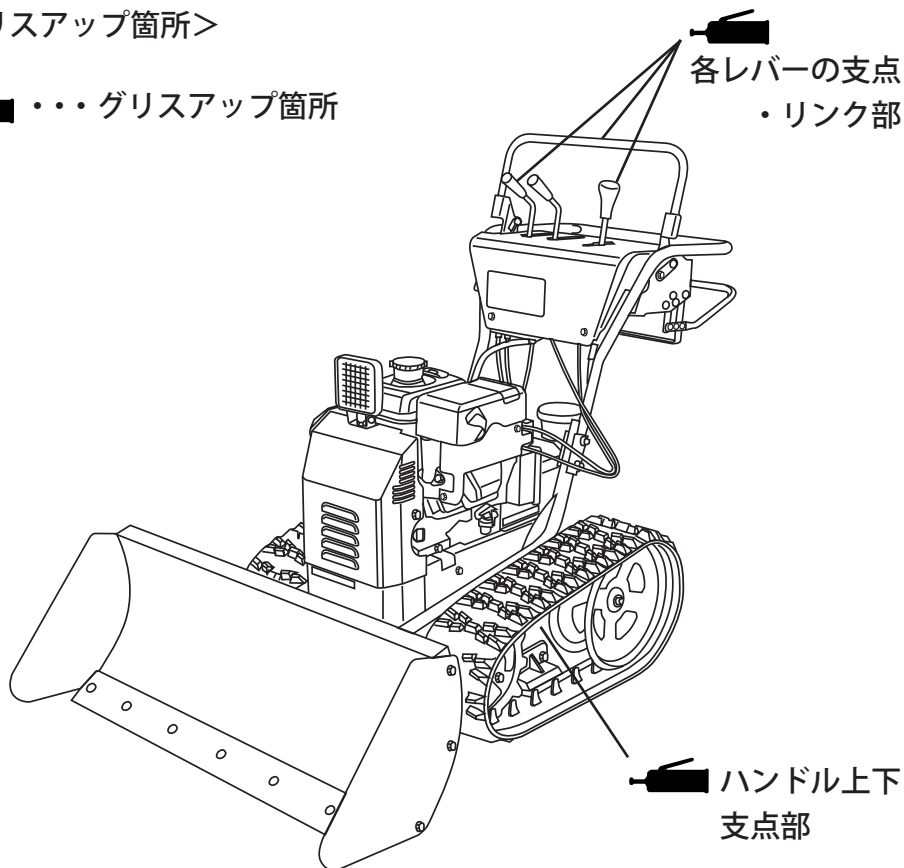
5. 保管時の注油、グリスアップ

水気や汚れを拭き取り、乾燥させた後、各部にグリスを注油してください。

使用グリス・・・シェル アルバニア グリース S 1
または 同等品

<グリスアップ箇所>

・・・グリスアップ箇所



6. エンジン等の過熱部が冷めてから、ビニール等でカバーをし、湿気やホコリの少ないところに保管してください。

11章 不調診断のしかた

故障のときは、まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買い上げいただいた販売店へお申しつけください。

こんなときは	点検見直し箇所	処置方法
エンジンが 始動しない (セルモータ が回らない)	始動方法は間違っていないですか	P. 43 「1. エンジンの始動のしかた」を参照し正しい手順で行ってください
	バッテリーが正しく取り付けられていますか	P. 82を参照し正しく取り付けてください
	ヒューズが切れていませんか	販売店に連絡し、修理を受けてください
エンジンが 始動しない (セルモータ は回る)	燃料が無くなっていませんか	P. 38を参照し補給してください
	燃料コックレバーが閉じていませんか	P. 43を参照し燃料コックレバーを開いてください
	点火プラグキャップが外れていませんか	点火プラグキャップを取り付けてください
走行しない	変速レバーが「中立」になっていませんか	「前進」または「後進」に入れてください
	ベルトが切れていませんか	販売店に連絡し交換してください
	ベルトがずべていませんか (すべると、焦げ臭い匂いがします)	販売店に連絡し、調整(交換)してください
	ミッションオイルが規定量入っていますか	P. 41を参照し補給してください
	クローラに異物が挟まっていますか	異物を取り除いてください
直進しない	片側のドライブピンが折れていませんか	P. 78を参照し、交換してください
エンジンに 力がない	無理な除雪作業をしていませんか	P. 65 「3. 除雪作業の要領」を参照し適切な負荷で作業してください
	エンジンオイルが規定量入っていますか	P. 39を参照し規定量入れてください
排気の色 が黒い	負荷をかけすぎていませんか	P. 65 「3. 除雪作業の要領」を参照し適切な負荷で作業してください
排気の色 が白い	エンジンオイルを入れすぎていませんか	P. 70を参照し、規定量にしてください
作業灯が 点灯しない	ヒューズが切れていませんか	販売店に連絡し、修理を受けてください
	コネクターが外れていませんか	コネクターを接続してください
	作業灯が故障していませんか	販売店に連絡し、交換してください
エンジンが 停止しない	P. 73を参照し、燃料コックレバーを閉じてください(まもなく、エンジンは停止します)	販売店に連絡し、修理を受けてください

12章 主要諸元

項目		型式名	S B 6 9 1
機 体 寸 法	全長	mm	1 5 9 0
	全幅	mm	9 0 6
	全高	mm	1 1 4 2
	装備重量	kg	1 7 0
性 能	除雪幅	mm	9 0 0
	除雪高	mm	3 4 0
	作業面積	m ² /h	6 0 0
エ ン ジ ン	名称		E K 1 7 B S 形
	形式		空冷4サイクル傾斜形 OHV式ガソリンエンジン
	総排気量	cm ³	1 6 9
	最大出力	kW(PS)/rpm	3.8 (5.2) / 3 2 0 0
	始動方式		セルモータ／リコイル式
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量	リットル	3.6
走 行 部	前進車速	km/h	0～3.7
	後進車速	km/h	0～3.1
	ミッション駆動		H S T
	クローラ		スノーパターンゴムクローラ
	幅×接地長×トレッド	mm	1 8 0 × 4 0 5 × 5 4 0
ベルト		W 8 0 0 ベルト S B 3 0	
バッテリー		4 0 B 1 9 R	

13章 主要消耗部品および標準付属品

13-1. 主要消耗部品・交換部品

部品番号	部品名	備考
23901-B83-000	ゴムクローラ180×72×23	
26901-B90-801	ドライブsprocket	
26902-B90-003	ドライブピン	
31901-B90-800	エッジ	
91652-0808030	W800ベルト SB30	走行 1本
91890-040B19R	バッテリー 40B19R	
83300-B89-000	LEDワーキングライト 15W	
91811-110	ブレードヒューズ 10A	
21H-32610-08	エレメント	エアクリーナー
065-01402-70	スパークプラグ	NGK BPR4HS

13-2. 標準付属品

部品番号	部品名	個数	備考
—	保証書、安全確認カード	1	
91901-B90-000	取扱説明書 (SB691)	1	本書
21H-99901-03	ボックスレンチ	1	点火プラグ用
02700-B90-800	トイCOMP	1	エンジンオイル交換用
26902-B90-003	ドライブピン	2	走行駆動用
99104-00050	6カクレンチ 5	1	ドライブピン交換用
91811-110	ブレードヒューズ 10A	1	

